秋田大学総合環境理工学部

学生の確保の見通し等を記載した書類

資料目次

資料１　経済産業省グリーン成長戦略（概要）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

資料２　秋田大学総合環境理工学部の設置を求める要望書・・・・・・・・・・・・・3

資料３　理工学部改組に係る秋田県内企業ヒアリング調査結果・・・・・・・・・・4

資料４　リクルート総研「18 歳人口予測　大学・短期大学・専門学校進学率
地元残留率の動向　東北版」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

資料５　既設学科等の入学定員・収容定員の充足状況（直近５年間）・・・・・・・ 39

資料６　理工学部　一般選抜志願状況（2019～2023 年度）・・・・・・・・・・・・・48

資料７　秋田大学　「情報データ科学部」「総合環境理工学部」設置・改組に関する
ニーズ調査結果報告書【高校生対象調査】・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49

資料８　ニーズ調査リーフレット・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・77

資料９　秋田大学理工学部入学時アンケート結果（2021～2023 年度）一部抜粋・・ 79

資料 10　秋田大学　「情報データ科学部」「総合環境理工学部」設置・改組に関する
ニーズ調査結果報告書【企業対象調査】・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 83

資料 11　卒業・修了者就職状況調・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・105

グリーン成長戦略（概要）

（令和３年６月18日策定）

資料１

- 温暖化への対応を、経済成長の制約やコストとする時代は終わり、「成長の機会」と捉える時代に突入している。
- 実際に、研究開発方針や経営方針の転換など、「ゲームチェンジ」が始まっている。
  この流れを加速すべく、グリーン成長戦略を推進する。
- 「イノベーション」を実現し、革新的技術を「社会実装」する。
  これを通じ、2050年カーボンニュートラルだけでなく、CO_2排出削減にとどまらない「国民生活のメリット」も実現する。

2050年に向けて成長が期待される、14の重点分野を選定。

・高い目標を掲げ、技術のフェーズに応じて、実行計画を着実に実施し、国際競争力を強化。　・2050年の経済効果は約290兆円、雇用効果は約1,800万人と試算。

洋上風力・太陽光・地熱

- 2040年、3,000~4,500万kWの案件形成【洋上風力】
- 2030年、次世代型で14円/kWhを視野【太陽光】

1

水素・燃料アンモニア

- 2050年、2,000万トン程度の導入【水素】
- 東南アジアの5,000億円市場【燃料アンモニア】

2

次世代熱エネルギー

- 2050年、既存インフラに合成メタンを90%注入

3

原子力

- 2030年、高温ガス炉のカーボンフリー水素製造技術を確立

4

自動車・蓄電池

- 2035年、乗用車の新車販売で電動車100%

5

半導体・情報通信

- 2040年、半導体・情報通信産業のカーボンニュートラル化

6

船舶

- 2028年よりも前倒しでゼロエミッション船の商業運航実現

7

物流・人流・土木インフラ

- 2050年、カーボンニュートラルポートによる港湾や、建設施工等における脱炭素化を実現

8

食料・農林水産業

- 2050年、農林水産業における化石燃料起源のCO_2ゼロエミッション化を実現

9

航空機

- 2030年以降、電池などのコア技術を、段階的に技術搭載

10

カーボンリサイクル・マテリアル

- 2050年、人工光合成プラを既製品並み【CR】
- ゼロカーボンスチールを実現【マテリアル】

11

住宅・建築物・次世代電力マネジメント

- 2030年、新築住宅・建築物の平均でZEH・ZEB【住宅・建築物】

12

資源循環関連

- 2030年、バイオマスプラスチックを約200万トン導入

13

ライフスタイル関連

- 2050年、カーボンニュートラル、かつレジリエントで快適なくらし

14

政策を総動員し、イノベーションに向けた、企業の前向きな挑戦を全力で後押し。

1 予算

- グリーンイノベーション基金（２兆円の基金）
- 経営者のコミットを求める仕掛け
- 特に重要なプロジェクトに対する重点的投資

2 税制

- カーボンニュートラル投資促進税制
  （最大10%の税額控除・50%の特別償却）

3 金融

- 多排出産業向け分野別ロードマップ
- TCFD等に基づく開示の質と量の充実
- グリーン国際金融センターの実現

4 規制改革・標準化

- 新技術に対応する規制改革
- 市場形成を見据えた標準化
- 成長に資するカーボンプライシング

5 国際連携

- 日米・日EU間の技術協力
- アジア・エネルギー・トランジション・イニシアティブ
- 東京ビヨンド・ゼロ・ウィーク

6 大学における取組の推進等

- 大学等における人材育成
- カーボンニュートラルに関する分析手法や統計

7 2025年日本国際博覧会

- 革新的イノベーション技術の実証の場
  （未来社会の実験場）

8 若手ワーキンググループ

- 2050年時点での現役世代からの提言

経済産業省　グリーン成長戦略（概要）

資料２

秋田大学総合環境理工学部の設置を求める要望書

国立大学法人秋田大学におかれましては、昭和２４年の開学以来、本県の高等教育機関の中核として、優れた人材の育成や産業の振興、文化の創造と発展、地域医療の充実など、本県の発展に多大なご貢献をいただくとともに、平成１８年からは、県との包括的な連携協定により、地域の課題解決に向け多角的な協力をいただいており、心から感謝申し上げます。

本県では最重要課題である人口減少問題を克服し、県民誰もが豊かさを実感できる秋田を目指し、2022 年度からの県政運営指針として「新秋田元気創造プラン」を策定しました。秋田の将来を支え、未来を力強く切り拓く人づくりを重点戦略の一つとし、グローバル社会で活躍できる人材の育成や、地域社会の活性化と産業振興に資する高等教育機関の機能の強化などを進めております。

一方で、新型コロナウイルス感染症をはじめとする突発的な災禍の発生などの懸念要因が増す中で、2050 年のカーボンニュートラル実現への対応や、デジタル化などによるパラダイムシフトが起きており、本県でもデジタル・トランスフォーメーション（ＤＸ）の推進や、多様な再生可能エネルギー源を活用した産業の構築について集中的に取り組んでいくこととしており、関連人材の育成も強く求められているところです。

この度の貴学理工学部の改組構想は、組織の統合と分野横断教育の推進による総合的学びの場の提供と、環境問題に関連した科学技術に関する教育を強化することから、高度理工系人材、異分野と共創できる人材、さらにはグリーン人材の養成が大いに期待されます。また、魅力的な知の拠点として、県内高校生の進学機会の拡大につながり、地域社会や産業が抱える課題解決のため、県内企業等と連携しながら教育・研究・社会貢献活動を行うことで、本県が推し進める再生可能エネルギー産業のほか、あらゆる分野で活躍できる確かな専門性を有した優秀な人材を輩出していただけるものと考えます。

県といたしても、これまで以上に貴学との連携を強化し、地域社会の課題・方向性を共有しつつ、本県の高等教育の充実に取り組んでまいりたいと考えておりますので、貴学理工学部の改組、総合環境理工学部の設置方について、強く要望いたします。

令和４年１２月７日

国立大学法人秋田大学長　山本文雄　様

秋田県知事　佐竹敬久

資料３

理工学部改組に係る秋田県内企業ヒアリング調査結果

【調査概要】

調査対象	・秋田県内に本社又は事業所のある企業等 ・共同研究等交流実績のある企業又は卒業生の就職実績のある企業等
調査エリア	秋田県内
調査方法	対面又は遠隔会議システムによる個別ヒアリング
調査対象数	ヒアリング対象数　　51
	＜参考：業種別内訳＞ 製造業　32 食料品製造業　1 医薬品・医療機器製造業　5 金属製品製造業　5 非鉄金属製造業　4 プラスチック製品製造業　1 窯業・土石製品製造業　1 電子部品・デバイス・電子回路製造業　5 電気機械器具製造業　9 その他の製造業　1 情報通信業　6 金融業　1 電気・ガス・熱供給・水道業　3 その他　9
	※対象企業選定あたっては学科ごとの偏りを防ぐため，各学科に関係する企業等（各学科所属の教員が共同研究等交流実績のある企業等）を各学科ほぼ同数選定した。
調査時期	2023 年 7 月 18 日（火）　～　2023 年 9 月 15 日（金）
調査実施者	理工学部教員
概要	・令和 7 年度の総合環境理工学部への改組に向けて，県内企業等に対し改組計画に係る意見や要望を伺い，改組計画の妥当性の検証と県内企業等のニーズを把握することを目的とする。 ・改組計画の概要を説明した後，回答傾向を集計・数値化し分析するため共通の質問事項を設け，これに基づきヒアリングを行った。

【質問事項】

①-1 理工学の基礎と応用を総合的に学び，グリーン社会実現に関連した科学技術分野の教育研究を強化した「総合環境理工学部」は必要だと思いますか。

①-2 御社において改組後の総合環境理工学部に何を期待しますか。

①-3 改組後の学部においては，地域企業との連携をさらに強化していきたいと考えておりますが，学部としてどのような取り組みを行っていけば連携がしやすいと考えますか。また，どうすれば大学との連携強化につながると思いますか。

②-1 応用化学生物学科，環境数物科学科，社会システム工学科の３学科構成とそれぞれが担う分野について適正と思われますか。

②-2 設問②-1 の回答の理由についてお聞かせください。

③-1 しっかり専門分野を学んだうえでその周辺分野なども学び他者と共創できる人材について魅力を感じますか。

③-2 設問③-1 のような人材が御社においてどのように活躍できると思いますか。

④-1 専門分野に関する知識を身に付け，かつ，グリーン社会・環境分野の知見を備えた人材について魅力を感じますか。

④-2 設問④-1 のような人材が御社においてどのように活躍できると思いますか。

⑤ その他，御社においてどのような能力を身に付けた人材が必要ですか。

⑥-1 学部および各学科の定員設定について適正だと思われますか。

⑥-2 学科の定員と，輩出する卒業者数についてご意見をください。

⑦ 総合環境理工学部の各学科を卒業した学生を採用したいと思いますか。採用を考える場合，毎年何人程度の採用を想定されますか。

⑧ 学生がインターンシップを希望した際には受入にご協力いただけますか。ご協力いただける場合，何人程度の受入が可能ですか。

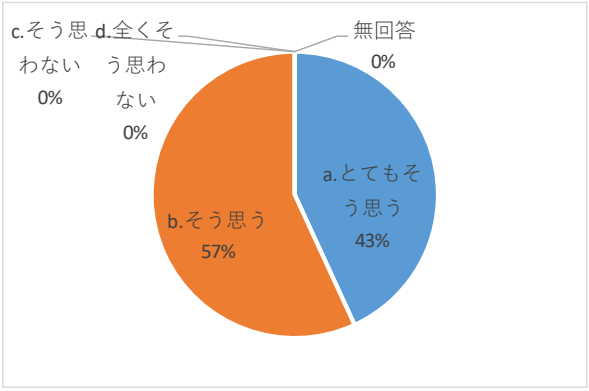
⑨ その他総合環境理工学部に対するご意見・ご希望を教えてください。

【設問別回答集計】

①-1 理工学の基礎と応用を総合的に学び，グリーン社会実現に関連した科学技術分野の教育研究を強化した「総合環境理工学部」は必要だと思いますか。

①-1 理工学の基礎と応用を総合的に学び，グリーン社会実現に関連した科学技術分野の教育研究を強化した「総合環境理工学部」は必要だと思いますか。

回答	件数
a.とてもそう思う	22
b.そう思う	29
c.そう思わない	0
d.全くそう思わない	0
無回答	0



◆改組後の「総合環境理工学部」は必要かという問いに対しては，全ての企業等が「a.とてもそう思う」または「b.そう思う」と回答した。学部改組計画の方向性については，県内企業のニーズと合致していることが確認できた。

①-2 御社において改組後の総合環境理工学部に何を期待しますか。（自由回答）

◆昨今，多くの企業等において「環境」「SDGs」等の視点が重要視されており，備えるべき基本的な素養としてグリーン社会実現に関連した分野の知識が重要視されていることがわかった。

◆分野横断的な教育についても肯定的なコメントが多く見られた。一方，分野横断型教育を強化したことにより専門的なスキルや知識の低下を懸念する声も聞かれた。

主なコメント
＜肯定的なコメント＞ ・企業としてカーボンニュートラルに向けた取り組みは今後の切実な課題であるため，その方面の新たな技術の研究を深めて頂きたい。 ・会社として，今後より一層環境に目を向ける必要があり，技術を追求する意識のみならず環境への意識も高い学生を輩出してほしい。 ・当社のかつての採用人事では，自社製品の製造に係る専門性や適性を備えていることを最優先の条件に採用者を求めた時代があったが，昨今の日本や世界が抱える社会問題からの要請に応えるため，最近では当社でも環境に関わる企業行動規範が制定され，これに対して社員の意識啓発が重要視されるようになった。こうして，社内で環境リスクへの対応や環境コンプライアンスの理解を深めるための研修会が定期的に開催されている。その意味で，総合環境理工学への改組によって，環境に関わる理工学教育と研究を強化しようという改組の意図を全面的に支持する。 ・企業は環境や SDGs を最重要理念に掲げてきている。そういう意識を学生のときから持たせていただきたい。 ・グリーン社会に対応した学部に期待する。社内でもサスティナビリティを意識した活動が行われており，広い知見を持った人材が必要と考えている。 ＜否定的なコメント＞ ・考え方の方向性はよいが，専門が環境科学技術に特化しても困る。秋田県の企業や産業の全体の向上を考慮すると，幅広い専門技術を学んでもらった方がよい。 ・分野横断型の教育は必要なことだと思うが，そちらを強化したことにより専門的な知見やスキルが低下するかもしれない点が少し心配である。 ・構想の様な学部は必要だと思うが，「総合環境理工学部」という名称が妥当であるかどうかは疑問である。 ＜その他コメント＞ ・製造業にて必要なデジタル技術を理解できる人材を養成してほしい。 ・専門分野に加え，データ・画像処理などのスキルを持った人材の養成を期待する。 ・英語でのコミュニケーションができる人材の養成を期待する。 ・専門の教育水準は維持してほしい。

①-3 改組後の学部においては，地域企業との連携をさらに強化していきたいと考えておりますが，学部としてどのような取り組みを行っていけば連携がしやすいと考えますか。また，どうすれば大学との連携強化につながると思いますか。（自由回答）

◆大学と気軽に交流・情報交換ができる場を設けて欲しいとの声が聞かれた。
◆インターンシップや，キャリア教育科目等の講師を企業側が務めるなど，交流の場を増やして欲しいとの声が聞かれた。
◆大学と企業のつなぎ役になれるような理系の総合職のような人材を育てて欲しいとの声が聞かれた。

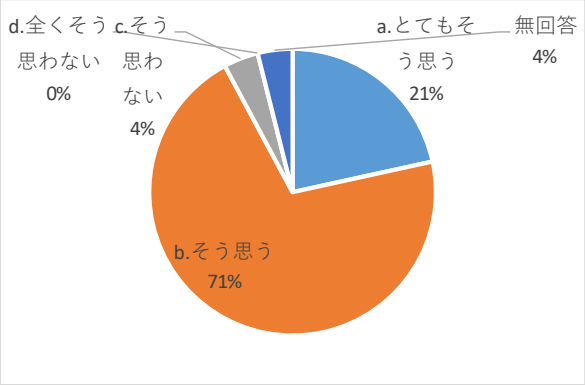
主なコメント

・技術に関する勉強会などを開催し，大学と気軽に交流できる場を設けてほしい。
・例えば，新技術がどこかで開発された際に，パイロットスタディを大学と地域企業間で立ち上げて，知恵を出し合って，実際に新技術を使えるレベルに持っていくことはやるべきではないか。それが，学生がのめり込めるような形に持っていくのが理想であり，秋田発のノウハウを持てるようになると，地域を強化できるのではないか。
・専門性，大学の研究とのマッチングが課題である。大学のシーズを企業に発信するだけでなく，企業のニーズを大学に伝えるようなシステムが欲しい。
・弊社に対して積極的にキャリア教育の機会を設けていただければ，連携がしやすいと考える。また，弊社の強みである半導体や電子材料に対して興味をもつ大学生がインターンシップに来てもらえれば，大学との連携強化につながると思う。
・大学の研究成果に関する情報発信を積極的に行って頂きたい。
・プロジェクトマネージャーを務め得る人材，経営を担う理系の総合職のような人材を育てて欲しい。このような人が増えれば母校との共同研究にも繋げてくれる。
・周辺分野を学ぶ際の“周辺”の対象について，本県が抱える課題を積極的に取り上げ，その解決方等の議論をカリキュラムの中にしっかりと組み入れていただくことで，貴学卒業生が直ぐに現場（職場）に馴染み，即戦力として活躍可能な雰囲気を醸成していけるものと思われる。

②-1 応用化学生物学科，環境数物科学科，社会システム工学科の３学科構成とそれぞれが担う分野について適正と思われますか。

②-1 応用化学生物学科，環境数物科学科，社会システム工学科の３学科構成とそれぞれが担う分野について適正と思われますか。

回答	件数
a.とてもそう思う	11
b.そう思う	36
c.そう思わない	2
d.全くそう思わない	0
無回答	2



◆ほぼ全ての企業等が「a.とてもそう思う」または「b.そう思う」と回答した。学科構成についても概ね県内企業のニーズと乖離はないことが確認できた。
◆「c.そう思わない」との回答の理由は「専門性がわかりにくい」「学科コースと分野の対応がわかり難い」といった内容であった。また，「a」「b」と回答した企業の中にも同様に専門性のわかりにくさをあげるところもあり，数字以上に，各学科の専門性をさらにわかりやすくアピールする必要性が感じられた。

②-2 設問②-1 の回答の理由についてお聞かせください。（自由回答）

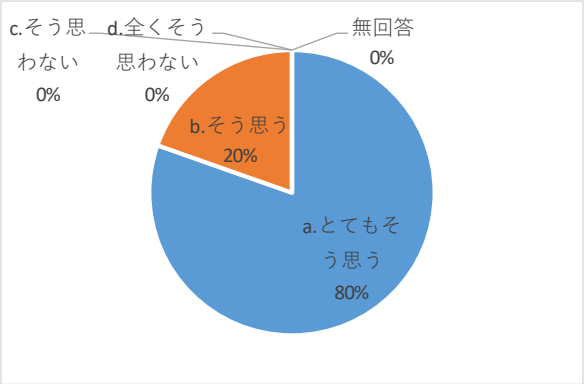
◆各学科の構成について，時代のニーズに合わせ効果的に融合されているとのコメントが多く聞かれた。
◆一方で，学科名称を見ただけでは，従来の専門性がわかりにくいとのコメントが多数聞かれた。企業用に各学科がどの従来の専門分野に属するか対応表の様なものを作ったり，高校生向けに何を学ぶのかわかりやすく説明する必要があるではないかとの意見があった。

主なコメント
＜肯定的なコメント＞ ・各分野の深い専門性を持たせつつ，他分野の専門性も理解できるよう育てる教育で，ハイブリッドな観点で物事を見ることができる人材が増えるとよい。次世代の社会や科学分野の発展につながるのではないか。 ・学科内での分野連携が効果的と思える。 ・現代社会が直面する科学技術に関わる諸課題に対応するために必要な即戦力を養成する学部として，今回の３分野の学科構成は適当なものと評価できる。 ・現在の教員陣容の中での組み合わせにおいては，シナジーを考えて最適な学科構成になっている。 ・近年の大学では，学部名や学科名がわかりにくい場合があるが，貴学の場合はわかりやすいと思う。応用化学生物学科の名称は，かなりトラディショナルな名称になっていると思う。 ＜否定的なコメント＞ ・学科名称に対して従来の専門性が見えにくくも感じる。 ・実際の中身や構成の変化が見えにくい名称であり，うまく内容を周知することが課題になると思う。 ・各学科を目指す受験生への詳細な説明が必要。 ・いろんな分野を総合的に学んでもらおうとする意志は感じるが，あまりに幅広くて，我々から見ると専門性が何なのかがわかりにくい。名前と専門性との関係がみえにくいので，採用が難しい。 ・学科名称がわかりにくい。何を学ぶのかわかりやすく説明する必要がある。３つの学科名称を並べて説明するならば理解できる。単独だと分かりにくい。古典的な名称の方がわかりやすいとは思う。 ・学科の構成は適当だが，学科名については検討したほうが良いと思う。応用化学生物科は昔の学科名のようで新鮮味がない。環境数物科学科は高校生がイメージしにくいのではないか。 ＜その他コメント＞ ・企業用に各コースがどの分野に属するか明記したものがあれば，企業の求める人材との食い違いが無くなると思う。 ・あまり専門分野を細分化すると，偏った知識や考え方をもった人材になってしまう可能性も高いと思う。大きな括りにして，広い分野の視野をもたせることは大切だと思う。

③-1 しっかり専門分野を学んだうえでその周辺分野なども学び他者と共創できる人材について魅力を感じますか。

③-1 しっかり専門分野を学んだうえでその周辺分野なども学び他者と共創できる人材について魅力を感じますか。

回答	件数
a.とてもそう思う	41
b.そう思う	10
c.そう思わない	0
d.全くそう思わない	0
無回答	0



◆全ての企業等が「a.とてもそう思う」または「b.そう思う」と回答した。「他者と共創できる人材」というコンセプトについては非常に肯定的な回答をもらうことができた。

③-2 設問③-1 のような人材が御社においてどのように活躍できると思いますか。（自由回答）

◆ほぼ全ての企業等において，他分野・他部署と協調・共創できる人材は高く評価されていることが確認できた。

主なコメント

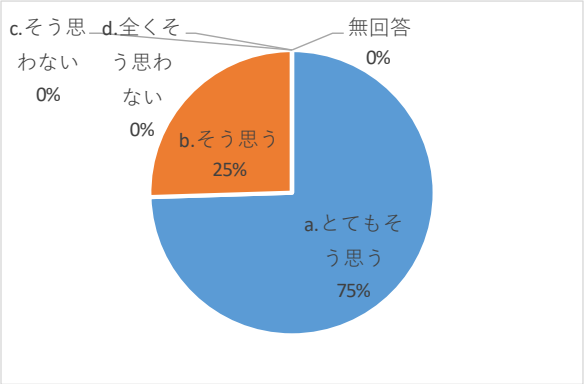
・企業ではジョブローテーションをしておりそれは内部で活性化を図る側面も持つ。企業におけるどの分野にも適合できるような，多面性と柔軟性を併せ持つ人材は必要。
・弊社の人材育成方針は，短所を正すので無く長所を延ばすという点にあり，5 つの事業会社で異なる役割の中で，互いの長所を伸ばして全体の最適化を図るのが方針である。そこでは従業員はスーパーヒーローでなく，自分の役割を果たした上で全体の最適化を図れること，自他の違いに気づけることが望まれ，設問③-1 のような人材は非常に活躍できると思う。
・ジョブローテーションは企業では普通に行われるため，いろいろな考え方を身につけ

たうえで共創・協働できる人間は強いと思う。
・化学が専門の人材は即戦力であるが，データ処理などのスキルをもっているなど，スペシャリストのみでなく，新しいことに挑戦できる人材が望ましい。
・チームでやっていくため，コミュニケーション，コラボレーション力は大切。共創できる人は活躍できる。開発エンジニアに代表されることだが，説明能力がないと，成果物として上がってこない。あらゆる場面で③-1 のような人材は活躍できる。
・これからの時代，「自分はこれしかやれない・できない，業務に直接関りのないことは我関せず」という信念の人は会社人として不適合とみなされる。社内の各部局に求められる深い専門性とスキルは当然重要であるが，社会が抱える諸課題に対する理解や規範意識をはじめ，幅広い教養と深い専門性を兼ね備えた人材こそが，当社が求める人材であり，そのような人材が会社の発展に貢献する推進力となる。
・専門をしっかりと学び，さらに周辺分野知識に長けた人材は，社会基盤構築に有用である専門技術は当然必要であるが，そのうえで，多種多様な知識をもち，また地域の意見に配慮し，協調性を持った人材がインフラ整備において重要。
・そのような人材が入社してくれれば，イノベーションが起こりやすくなると期待できる。それにより，開発のスピードをアップできると期待している。具体的には，生物と化学，特に化学工学など，の両方を学んだ人材が望ましい。

④-1 専門分野に関する知識を身に付け，かつ，グリーン社会・環境分野の知見を備えた人材について魅力を感じますか。

④-1 専門分野に関する知識を身に付け，かつ，グリーン社会・環境分野の知見を備えた人材について魅力を感じますか。

回答	件数
a.とてもそう思う	38
b.そう思う	13
c.そう思わない	0
d.全くそう思わない	0
無回答	0



◆全ての企業等が「a.とてもそう思う」または「b.そう思う」と回答した。「グリーン社会・環境分野の知見を備えた人材」というコンセプトについては非常に肯定的な回答をもらうことができた。

④-2 設問④-1 のような人材が御社においてどのように活躍できると思いますか。（自由回答）

◆ほぼ全ての企業等において，グリーン社会・環境分野の知見を備えた人材は高く評価されていることが確認できた。

主なコメント
・環境対応については会社として極めて重要。 ・例えば GX を推進しようとしても GX を専門にした人は採用できない。専門性とグリーン分野の知識を兼ね備えた人材は重宝される。 ・環境分野への意識の高さはもはや当たり前。2050 年に向けてのカーボンニュートラルやリサイクルや省エネなど良い製品を開発するだけでは，企業として生き残ることが出来ないと考えている。

・技術を追求する意識のみならず環境への意識も高い学生は，今後より一層環境に目を向けなければならない会社として，大変重要である。
・弊社はモノづくりの会社であり，グリーン社会・環境分野の知見を備えた技術者であれば，効率的に試料を作製，製品化への取り組みに活躍できる。結果的に製造コスト低減につながる。
・環境への影響を無視した企業活動は成り立たない。環境に配慮しつつ，専門知識を活かすことのできる人材は貴重であり，実践的な人材と言える。
・理工学の専門知識に加え，環境に関わる技術に造詣の深い人材は，社内の環境コンプライアンスを理解し，これを先導する役割が期待できる。
・脱炭素は喫緊の課題であり，弊社としても最重視している。脱炭素の実現は，一つの技術分野で対応できるものではなく，組織の統合力を高めて対応する必要がある，また，弊社で機材を導入する場合，環境適合性やリサイクル性を強く考慮している。グリーン社会や環境に関わる企業の活動は，その企業の社会的評価を高める上でも大事であり，その際，上記人材が必要であると思う。
・高校では，総合的な学習（探究）の時間を実施している。環境問題などは生徒が取り上げる回数が多いトピックスとなっていて，環境関連に関して外部から講師を派遣してもらうことが多い。環境関連の知見を備えた人材は教育の現場でも必要とされている。
・製造過程における環境負荷が大きい製品を扱っているため，環境に関する知見を持った人材が必要である。環境に関わる法規制もあり，対応できる人材が必要である。製造以外の部門においても，サスティナビリティやグリーン社会を意識した取り組みを行っている。

⑤ その他，御社においてどのような能力を身に付けた人材が必要ですか。（自由回答）

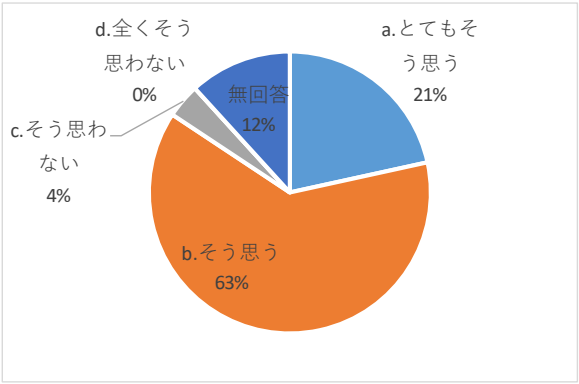
◆人間性，人間力を重視する声が多く聞かれた。
◆総合力，応用力，そしてコミュニケーション能力・協調性を重視する声が多く聞かれた。
◆英語能力の必要性を訴える企業も多く見られた。

主なコメント
・人間性が大切。 ・応用が効く人材は貴重。 ・弊社では，職種別に求人・採用している。職種に合致した学部・学科出身者であり，高い専門性を持つことは必須と考えている。そのうえで，大学生活の中でいろいろな考え方に触れてきて欲しい。例えば，年代の違う人や人種・国籍の違う人たちの考え方を理解し，他者を許容できる人材であってほしい。また，今後，ビジネスと人権リスクは重要になるため，人権については関心を持って欲しい。 ・コミュニケーション能力 ・英語能力 ・DX や IT スキルを持った人材が必要である。ただし，それらはあくまでツールであることを認識した上で，それらを活用する技能と知識を習得し，それをもって高い専門性を有する人材が必要である。 ・先ず最低限必要なのは，学問の基礎的な素養を身に付け，実験データの測定スキルなど基本的なスキルをきちんと修得していること。

⑥-1 学部および各学科の定員設定について適正だと思われますか。

⑥-1 学部および各学科の定員設定について適正だと思われますか。

回答	件数
a.とてもそう思う	11
b.そう思う	32
c.そう思わない	2
d.全くそう思わない	0
無回答	6



◆ほぼ全ての企業等が「a.とてもそう思う」または「b.そう思う」と回答した。定員設定については県内企業等の大半が適正であると感じていることが確認できた。
◆「c.そう思わない」との回答の理由は「学科・コースに定員を設定するということ自体に異論がある」「社会システム工学科の人数が，他分野の組み込みにより現在のシステム

デザイン工学科より減少しているようにみえる」といった内容であった。

⑥-2 学科の定員と，輩出する卒業者数についてご意見をください。(自由回答)

◆定員規模，卒業者数については適正と感じている企業等が大半であった。現状の理工学部の規模感を適正と感じているところが多く，現状と大きく変えないで欲しいという意見が大勢を占めていた。

主なコメント

・学生からのニーズ，社会の要請ともに適正と感じる。
・県内企業の分野のバランスから適正ではないか。
・再編後の分野の定員がそのまま卒業した際に，各分野の人数と企業の採用ニーズは大きくは離れていないと思われ，適正ではないか。
・産業の構成を考慮して考えるべき。特に秋田では，製造業で電気，電子，機械の卒業生が求められる。
・社会基盤分野で昨今人手不足が言われている。その辺りを考慮する必要があるのではないか。
・情報系分野が新学部にわかれることを考慮すると，現状とほぼ同じ規模の定員は適正と考える。
・人口減少で子どもの数が大きく減少するので，改組後の学部で輩出する卒業者数が減少するのはやむをえないと思う。一方，社会での女性の活躍が今後重要になるので，それに対応できるような取り組みがあっても良いと思う。
・応用化学生物学科と環境数物科学科は多すぎる印象がある。各々９０名程度の定員でよいのではないか，一方で社会システム工学科はもっと多い方が良いように思う。
・地方大学は県外就職が多い。県内就職を増やすには大学の定員そのものを多くしてもらって，割合が低くても県内就職者数の実数を増やしてもらいたい。(学部定員は多い方がよい)
・理工系人材の輩出数を減らさないことが重要である。
・これ以上人数を増やしてゆくと，質の低下を招いてしまうこともあるので，現状で適性と思う。

⑦ 総合環境理工学部の各学科を卒業した学生を採用したいと思いますか。採用を考える場合，毎年何人程度の採用を想定されますか。

※１社から複数学科に対し採用意向があるケースもあり。

学科名	採用意向（有）企業数	採用意向人数（人／年）計
応用化学生物学科	34	73
環境数物科学科	36	70
社会システム工学科	36	93

秋田県内の採用意向数から予測する全国採用意向数と学科定員の妥当性の検証

①平成30～令和４年度における学部卒業生の就職先割合は5年平均で県内19.9%，県外80.1%である。
②秋田県内企業における採用意向数を調査し，その結果から全国における採用意向数（見込み）を予測する。
（県内採用意向数÷19.9%）

学科名	定員数	県内企業 採用意向数 (a)	県内採用意向数から 予測する 全国採用意向数 (a)÷19.9% (b)	学生1人あたりの 求人数 （全国予測） (b)÷定員数
応用化学生物学科	100	73	366.8	3.7
環境数物科学科	90	70	351.8	3.9
社会システム工学科	125	93	467.3	3.7
計	315	236	1185.9	3.8

採用意向数 学科比率 (C)	(C)× 学部定員 (315名)
30.9%	97.4
29.7%	93.4
39.4%	124.1

◆県内採用意向数から予測する全国採用意向数からは，学部定員 315 名および各学科に設定する定員に対しては十分に求人が見込める状況であると判断できる。
◆各学科の定員設定の比率も，採用意向数の学科比率と近い値を示しており，妥当であると判断できる。
◆応用化学生物学科と環境数物科学科の比率については応用化学生物学科が少々高い値を示している。これに加え，現理工学部の生命科学コース，応用化学コースにおける女子学生の比率が高いことから，これら２コースを母体とする応用化学生物学科の理系女子学生の受け皿としての機能を考慮し，原案どおりの学科定員（100-90-125）は妥当であるとの判断に至った。
◆今後，県外も含めた高校・企業向けのアンケートを別途実施し，改めて定員設定の妥当性を確認する。

⑧ 学生がインターンシップを希望した際には受入にご協力いただけますか。ご協力いただける場合，何人程度の受入が可能ですか。

受入可能企業数	受入可能人数計
48	281

⑨ その他総合環境理工学部に対するご意見・ご希望を教えてください。(自由回答)

主なコメント
・改組の方向性は良いと感じるが，学部名と中身に対応をどのように説明するかが大切ではないか。横文字（カタカナ）を入れるのもよいと思う。 ・専門性に加え，人間性が大切。 ・英語教育の強化は良い。 ・大学院は専門性を磨くために大切。 ・新しい時代の人には，メガデータの取り扱いなどに対応してほしい。新しい種類の情報に対して，情報収集能力と整理能力を向上させ，真偽の見極めができる人材を育成して欲しい。もちろん，主とする専門技術には実地に能力を発揮したうえで，情報収集する部分において付加的な能力として求めたい。情報を創造につなげられる人材の育成を求めたい。 ・名称について，学部の「総合環境理工学部」では，名前を見ただけでは内容が分からない。説明を聞いて理解できたが，名前を見て伝わらないことはデメリットと思われる。学生には内容を理解しにくいのではないか。専門性を環境に向けている，という方向性が示せる名称がよい。「環境」は柔らかすぎる。 ・どのように「総合環境理工」の専門性を持たせる学生を育てるのか，ロードマップ(どの段階でどのような能力が培われるか，など)を示せると，(志望する可能性のある)学生には分かり易いのではないか。 ・学生に「考える力」を持たせて欲しい。 ・今回の改組の動機は何なのか，何が今，行き詰っているのかを明確にさせるという点において，また，これから大学を受験する学生や子どもたちに，もの作りを秋田大学で学びたいと思ってもらう（特に，秋田県内出身の学生をもっと増やしたい）という点において，秋田大学の「特色」は何か，今までに積み重ねられた「学問的ルーツ」とは何か，キラーパス的に働くものをはっきり打ち出してほしい。 ・秋田大学では伝統的に，石油や鉱石といった資源・原料の精製分離プロセスに関わる技

術が一つの柱であった訳で，それをもとにして今後どの様に大学の特色を出していくか，それが今うたっている「分野横断」のコアとして，また「グリーン社会」につなげていく学問的な基軸として働くのではないかと考える。
・食品製造業の弊社としては，採用人員は，応用化学生物学科の生物学コースがターゲットになる。生物学の専門性をしっかり教育して欲しい。また，総合環境理工学部全体には，秋田に根付くような人材を育成して欲しい。
・日本でものを作る，ものづくりの価値を向上させてほしい。
・新しい組織編成ということですが，今後の各企業が世の中から求められる対応について，総合環境理工学部のような視点での取り組みが必要と思いますし，この取り組みを実施するため，応用化学や材料の知識がベースにないと出来ないと思っております。
・他大学でもそうだが，学部，学科，コースの名前から，その教育研究内容をイメージしにくいように思う。進学先を決める高校生は，分からなかったりしないのだろうか，気になる。
・県内就職者数を増やすように大学が努力してほしい
・未来社会をイメージできてそれに向かって業務を遂行できる人材を輩出してほしい
・専門性を謳っているが，どうしても「広く浅く」のように聞こえる。広げすぎのようにも思える。大学院ではこれまで以上に専門性をしっかりと追及すること希望する。
・解答がない課題を解決するためには，専門性の他に，広い知識が必要である。そのためにも広い興味を持った人材育成が必要であり，企業で活躍できる人材になりうる。4 年次に開講予定の「総合環境理工学セミナー」について，深堀した専門性だけでなく，広く知識をもった人材育成のため，ぜひ実施してほしい。
・秋田大学に在籍している県内出身者の割合を増やし，卒業生の県内就職を促進してもらいたい。
・企業サイドから言わせてもらうと，マルチに対応できる学生というよりにも，ある専門について深く学んできた学生（オタク）が，企業に入社してから長く続いているように思えます。大学には，30 年後，50 年後の未来を想像し，次につなげられるような人材の教育を行ってほしいと思います。また，国際教養大学 AIU のような大学が注目されていますが，卒業生がほとんど県外に就職しており，秋田大学の卒業生が地元就職につなげるような教育としてもらいたい。さらに中学生，高校生に秋田大学の魅力をさらにアピールしてもらい，キャリア教育の育成をおこなってもらいたいと思います。
・環境問題はこれから大事になる。企業において即戦力で活躍できる人材輩出となることを期待している。
・優秀な学生が欲しい。この頃の学生は（日本全国どこでも）内向き傾向にあると思う。海外大学との交流など海外との交流が必要なのではないか。
・学科名が一見しただけではわかりにくい。
・海外のお客様とやりとりすることが多くなってきたので，英語を強化するのはいいと

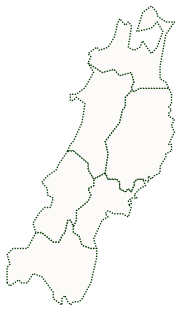
思う。
・専門をしっかりやって欲しい。深掘りしたところがないと開発ができないので。
・大学を利用しやすくするために何ができるかをアナウンスして欲しい。
・専門分野と基礎分野をバランスよく重視した教育を実施してほしい。
・オープンな学部を目指してほしい。外部に向けた，外部を意識した情報発信を行ってほしい。
・会社を知ってもらう機会を作ってほしい。そのための，学部全体にアピールできる場所や機会を設けてほしい。
・コース名がわかりづらい。コース名を見ただけでは，学生が何を学んできたのかわかりにくい。
・地域産業への人材供給。また，地域産業が抱える課題解決のための共同研究をする機会があるとよい。そのために，事業内容を含めて企業紹介をさせてもらいたい。その上で，共同研究，学生のリクルート活動につなげたい。
・時代の要請に適った改組案と評価できる。一方，環境問題は秋田県にとどまらず人類共通の問題であるが，それとは別に，秋田ならではの問題や課題とは何か，地域に根ざした特色ある人材養成（教育・研究）の目標やミッションが盛り込まれていれば，なお良いと感じた。
・今回の改組の方向性と弊社の中長期ビジョンと合致しているところが多く，新しい学部および輩出される人材に大いに期待している。現状，秋田大学理工学部との交流が限られているので，今後はより連携を深めていきたいと考えている。
・地元企業との共同研究などを増やして，卒業生が地元への就職を考えるような，学生と企業のマッチングの機会を増やして頂いたい。世の中にニーズに敏感になり，ジェネラリストになりすぎるのも宜しくないので，専門分野と周辺や教養分野の教育の適切なバランスをお願いしたい。
・総合的に学ぶということであれば学科やコースを無くす，学部も細かく分けないで大くくりにしてはどうか。学ぶ内容もフレキシブルにしてはどうか。（学生は学科・コース制などの枠組みがある方がよいと考えるかもしれないが）地域に根差した大学ということであればそもそも県立大と秋田大が分かれている意味も無く，一緒になってもよいのではないか。
・秋田大学の卒業生を秋田に残す（あるいは外に出た人を帰す）方策が必要。官（秋田県の行政）と学（大学）の連携が必要。
・リスキリングに取り組んで欲しい。この取り組みと A ターンを組み合わせ，中央にいる人間を秋田に戻すことを考えて欲しい。
・1・2年生でアントレプレナーシップを学ぶ科目を入れてはどうか。新学部はサラリーマンを育成する課程に見えてしまう。それで良いのか。起業のスタートアップ，ソーシャルアントレプレナーを学ぶプログラムが必要ではないか。

・総合知ということであれば，経営工学的なものが必要と考える。プロジェクトマネージャーを育成できるものが必要。
・入試ではもっと大きな枠組みで取って，基礎を教えてから各学科・コースに振り分けてはどうか。
・データサイエンス教育，英語教育は良い。
・総合環境理工学部という名称は，説明を受けないとわかりにくいのではないか。
・大学には学生を鍛えて欲しい。大企業だけでなく中小企業にもグローバル化の波が来ている。ヨーロッパでは売り上げ１００億未満でも国外に出ていく。外国の文化・やり方に耐えられ，考えて行動できるような人間力を養っていただきたい。（知識も必要だが，いわゆる人間力が必要）
・地域に根ざして活性化を見据えることができ，地域の魅力に思いを抱く人材を育成してほしい。
・災害研究を進めてほしい。
・英語能力を身につけることも大切だが，それよりも専門技術を身につけることが優先されるため，本来の専門がおろそかにならないように希望する。
・これまでよりも，セミナーや技術連携などをさらに強化していただき，地元技術者との交流を増やし，さらに多くの卒業生を地元企業に輩出していただきたい。
・地方国立大学として，地域密着・連携による，県内定着技術者の輩出について，さらなる強化を期待する。
・秋田の産業，自然，資源なども学習して欲しい。学科を超える仕組みを目指すことは望ましく（高校でも進んでいる），学際的な制度は魅力的である。
・学部教職担当者との連携強化を望む。
・産官学の交流をしやすい環境を整えて戴けると嬉しい。専門の枠を超えて，話し合う場が欲しい。
・採用担当としては，会社に入社する際，学生は企業に希望をもって入社するが，入社後にギャップを感じていることが多いように思う。専門知識はあるが，企業での業務を納得して働けているかどうかに疑問を感じている。そのような，仕事に対する夢と実際の業務とのギャップを小さくしておくようなことができると嬉しい。

リクルート進学総研 マーケットリポート2022

18歳人口予測
大学・短期大学・専門学校進学率
地元残留率の動向
東北版

- 青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県 -



【将来予測　2022～2034年】

▶18歳人口予測　P2～P4

・2022年78,146人→2034年63,247人（14,899人減少）
・減少率が高いのは、秋田県（2022年比較24.9%減少）
・減少数が多いのは、福島県（2022年17,276人→2034年14,062人、3,214人減少）

【経過推移　2013～2022年】

▶進学者数・進学率（現役）の推移　P5～P10

進学者数

・大学は、2013年32,612人→2022年31,383人（1,229人減少）と、3.8%減少
・短期大学は、2013年4,716人→2022年3,515人（1,201人減少）と、25.5%減少
・専門学校は、2013年16,183人→2022年12,673人（3,510人減少）と、21.7%減少

進学率（現役）

・大学は、2013年37.8%→2022年44.7%（6.9ポイント上昇）
・短期大学は、2013年5.5%→2022年5.0%（0.5ポイント低下）
・専門学校は、2013年18.7%→2022年18.1%（0.6ポイント低下）

▶地元残留率の推移　P11～P13

・大学は、2013年33.7%→2022年36.0%（2.3ポイント上昇）
・短期大学は、2013年66.3%→2022年70.4%（4.1ポイント上昇）

▶東北エリア概要（全体：県別）　P14～P16

■分析・データについて

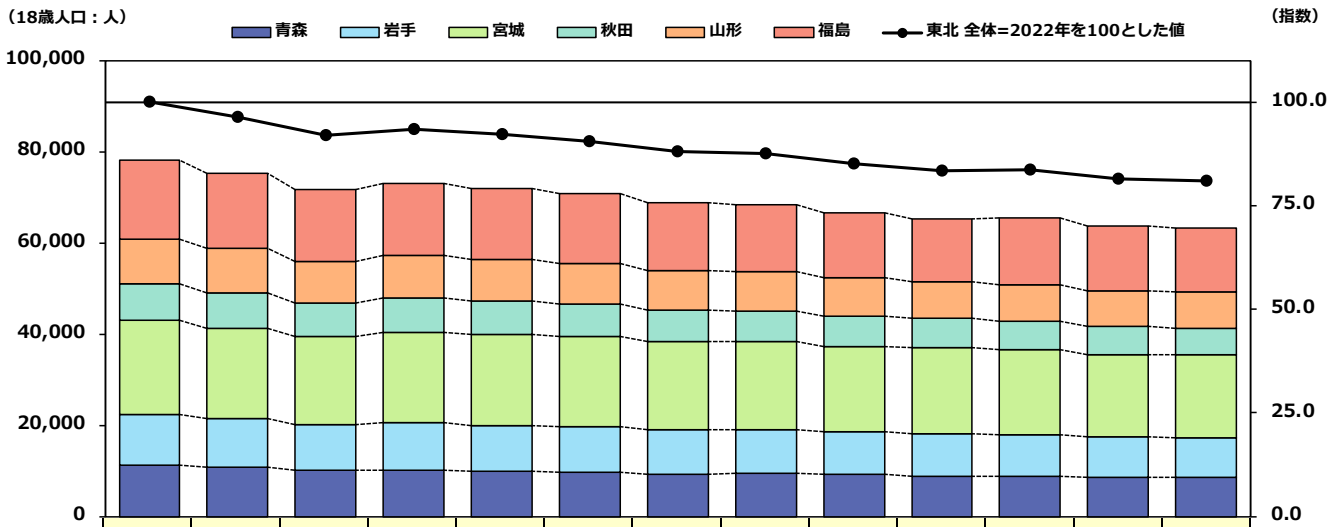
① 18歳人口予測は、文部科学省「学校基本調査」より、以下の通り定義して算出した。
・ 18歳人口＝3年前の中学校卒業者及び中等教育学校前期課程修了者数と義務教育学校卒業者数
・ 中学校卒業者数＝高校生＋フリーター＋就職者　全て含む
② 表内の「年」に属する18歳とは、その年の3月に卒業を迎える高校3年生を指す（年＝年度）。
③ 表内の「指数」とは、グラフ開始年の値を100とおいた際の値を示す。
④ 卒業者数とは、高等学校卒業した数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程）。
⑤ 進学者数とは、高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した数。
⑥ 進学率（現役）とは、進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業者数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程）で算出した。
⑦ 残留率とは、自県内（地元）の大学・短期大学入学者数のうち自県内（地元）の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合（浪人含）。
⑧ 図表で利用している百分率（%）は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、数値の和が100.0にならない場合がある。
※専門学校＝専修学校専門課程

【本件に関するお問い合わせ先】
株式会社リクルート　リクルート進学総研
https://souken.shingakunet.com/

18歳人口予測（全体：東北：2022～2034年）

■2022年78,146人→2034年63,247人（14,899人減少）

・東北エリアは14,899人・19.1%減少し、全国の減少率10.3%を8.8ポイント上回る。
・2024年に71,820人まで減少した翌年に1,193人増加するが、その後再び減少に転じ2034年までに9,766人減少する。
・減少率が高いのは、秋田県（2022年比較24.9%減少）。
・減少数が多いのは、福島県（2022年17,276人→2034年14,062人、3,214人減少）。



		2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年
東北	人数	78,146	75,379	71,820	73,013	72,013	70,749	68,816	68,461	66,576	65,266	65,444	63,794	63,247
	指数	100.0	96.5	91.9	93.4	92.2	90.5	88.1	87.6	85.2	83.5	83.7	81.6	80.9
青森	人数	11,250	10,757	10,067	10,184	9,914	9,801	9,327	9,485	9,243	8,862	8,835	8,640	8,579
	指数	100.0	95.6	89.5	90.5	88.1	87.1	82.9	84.3	82.2	78.8	78.5	76.8	76.3
岩手	人数	11,138	10,677	10,092	10,396	10,086	9,986	9,755	9,636	9,358	9,200	9,126	8,829	8,639
	指数	100.0	95.9	90.6	93.3	90.6	89.7	87.6	86.5	84.0	82.6	81.9	79.3	77.6
宮城	人数	20,765	19,930	19,235	19,761	19,988	19,671	19,257	19,166	18,652	18,994	18,614	18,112	18,195
	指数	100.0	96.0	92.6	95.2	96.3	94.7	92.7	92.3	89.8	91.5	89.6	87.2	87.6
秋田	人数	7,909	7,792	7,411	7,535	7,311	7,153	7,029	6,785	6,651	6,380	6,169	6,055	5,936
	指数	100.0	98.5	93.7	95.3	92.4	90.4	88.9	85.8	84.1	80.7	78.0	76.6	75.1
山形	人数	9,808	9,630	9,116	9,327	9,159	8,918	8,692	8,677	8,448	8,159	8,086	7,839	7,836
	指数	100.0	98.2	92.9	95.1	93.4	90.9	88.6	88.5	86.1	83.2	82.4	79.9	79.9
福島	人数	17,276	16,593	15,899	15,810	15,555	15,220	14,756	14,712	14,224	13,671	14,614	14,319	14,062
	指数	100.0	96.0	92.0	91.5	90.0	88.1	85.4	85.2	82.3	79.1	84.6	82.9	81.4

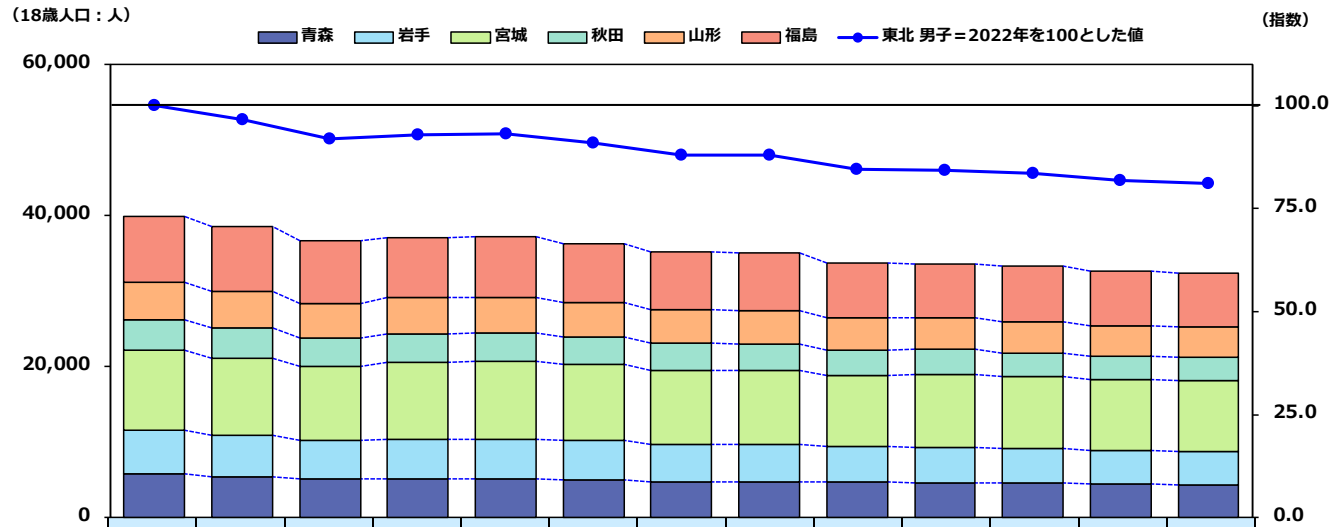
全国	人数	1,121,285	1,097,416	1,063,451	1,090,562	1,092,647	1,084,271	1,068,477	1,068,876	1,050,143	1,034,714	1,023,592	1,013,581	1,005,782
	指数	100.0	97.9	94.8	97.3	97.4	96.7	95.3	95.3	93.7	92.3	91.3	90.4	89.7

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

18歳人口予測（男子：東北：2022～2034年）

■2022年39,863人→2034年32,354人（7,509人減少）

・男子は7,509人・18.8%減少し、全国の減少率10.5%を8.3ポイント上回る。
・2024年に36,608人まで減少した後、2026年まで552人増加するが、その後再び減少に転じる。
・減少率が高いのは、青森県（2022年比較24.3%減少）。
・減少数が多いのは、福島県（2022年8,760人→2034年7,048人、1,712人減少）。



		2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年
東北	人数	39,863	38,506	36,608	37,070	37,160	36,256	35,119	35,067	33,740	33,546	33,319	32,649	32,354
	指数	100.0	96.6	91.8	93.0	93.2	91.0	88.1	88.0	84.6	84.2	83.6	81.9	81.2
青森	人数	5,738	5,458	5,110	5,106	5,107	5,061	4,724	4,785	4,665	4,599	4,535	4,431	4,341
	指数	100.0	95.1	89.1	89.0	89.0	88.2	82.3	83.4	81.3	80.1	79.0	77.2	75.7
岩手	人数	5,774	5,397	5,077	5,281	5,300	5,162	4,967	4,889	4,738	4,738	4,646	4,504	4,402
	指数	100.0	93.5	87.9	91.5	91.8	89.4	86.0	84.7	82.1	82.1	80.5	78.0	76.2
宮城	人数	10,616	10,209	9,836	10,133	10,293	10,020	9,819	9,864	9,410	9,654	9,495	9,360	9,464
	指数	100.0	96.2	92.7	95.5	97.0	94.4	92.5	92.9	88.6	90.9	89.4	88.2	89.1
秋田	人数	4,015	3,997	3,734	3,850	3,748	3,647	3,589	3,460	3,357	3,244	3,092	3,119	3,043
	指数	100.0	99.6	93.0	95.9	93.3	90.8	89.4	86.2	83.6	80.8	77.0	77.7	75.8
山形	人数	4,960	4,940	4,638	4,741	4,747	4,565	4,482	4,431	4,298	4,189	4,098	3,937	4,056
	指数	100.0	99.6	93.5	95.6	95.7	92.0	90.4	89.3	86.7	84.5	82.6	79.4	81.8
福島	人数	8,760	8,505	8,213	7,959	7,965	7,801	7,538	7,638	7,272	7,122	7,453	7,298	7,048
	指数	100.0	97.1	93.8	90.9	90.9	89.1	86.1	87.2	83.0	81.3	85.1	83.3	80.5

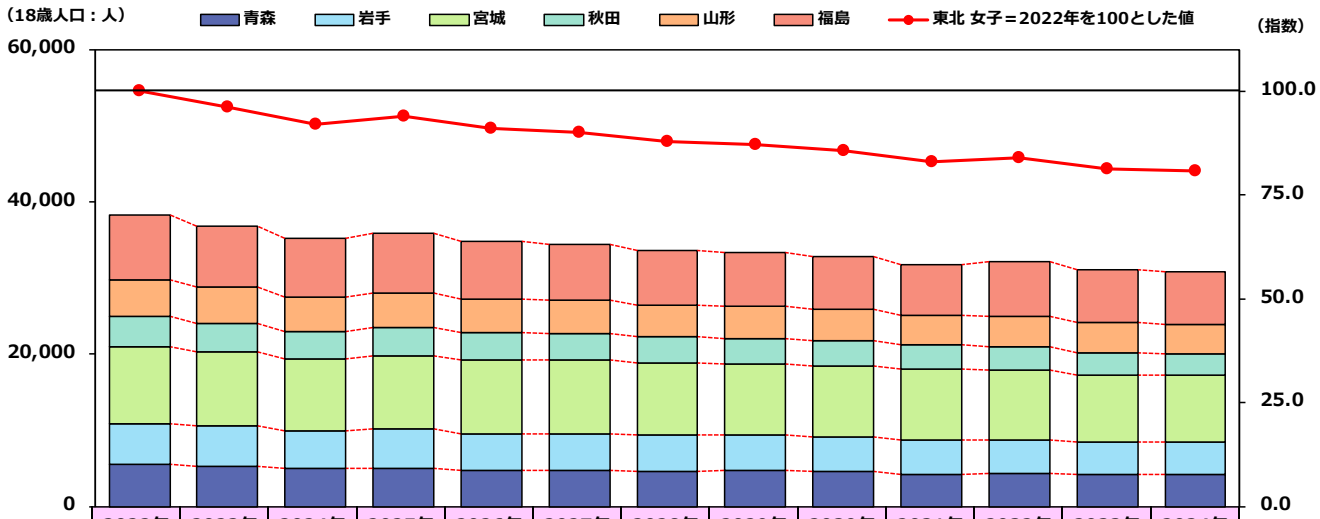
全国	人数	573,645	560,512	543,958	557,468	559,645	553,618	546,175	547,736	536,306	528,975	523,331	518,983	513,192
	指数	100.0	97.7	94.8	97.2	97.6	96.5	95.2	95.5	93.5	92.2	91.2	90.5	89.5

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

18歳人口予測（女子：東北：2022～2034年）

■2022年38,283人→2034年30,893人（7,390人減少）

・女子は7,390人・19.3%減少し、全国の減少率10.1%を9.2ポイント上回る。
・2024年に35,212人まで減少した後、翌2025年に731人増加するが、その後再び減少に転じる。
・減少率が高いのは、秋田県（2022年比較25.7%減少）。
・減少数が多いのは、福島県（2022年8,516人→2034年7,014人、1,502人減少）。



		2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年
東北	人数	38,283	36,873	35,212	35,943	34,853	34,493	33,697	33,394	32,836	31,720	32,125	31,145	30,893
	指数	100.0	96.3	92.0	93.9	91.0	90.1	88.0	87.2	85.8	82.9	83.9	81.4	80.7
青森	人数	5,512	5,299	4,957	5,078	4,807	4,740	4,603	4,700	4,578	4,263	4,300	4,209	4,238
	指数	100.0	96.1	89.9	92.1	87.2	86.0	83.5	85.3	83.1	77.3	78.0	76.4	76.9
岩手	人数	5,364	5,280	5,015	5,115	4,786	4,824	4,788	4,747	4,620	4,462	4,480	4,325	4,237
	指数	100.0	98.4	93.5	95.4	89.2	89.9	89.3	88.5	86.1	83.2	83.5	80.6	79.0
宮城	人数	10,149	9,721	9,399	9,628	9,695	9,651	9,438	9,302	9,242	9,340	9,119	8,752	8,731
	指数	100.0	95.8	92.6	94.9	95.5	95.1	93.0	91.7	91.1	92.0	89.9	86.2	86.0
秋田	人数	3,894	3,795	3,677	3,685	3,563	3,506	3,440	3,325	3,294	3,136	3,077	2,936	2,893
	指数	100.0	97.5	94.4	94.6	91.5	90.0	88.3	85.4	84.6	80.5	79.0	75.4	74.3
山形	人数	4,848	4,690	4,478	4,586	4,412	4,353	4,210	4,246	4,150	3,970	3,988	3,902	3,780
	指数	100.0	96.7	92.4	94.6	91.0	89.8	86.8	87.6	85.6	81.9	82.3	80.5	78.0
福島	人数	8,516	8,088	7,686	7,851	7,590	7,419	7,218	7,074	6,952	6,549	7,161	7,021	7,014
	指数	100.0	95.0	90.3	92.2	89.1	87.1	84.8	83.1	81.6	76.9	84.1	82.4	82.4

全国	人数	547,640	536,904	519,493	533,094	533,002	530,653	522,302	521,140	513,837	505,739	500,261	494,598	492,590
	指数	100.0	98.0	94.9	97.3	97.3	96.9	95.4	95.2	93.8	92.3	91.3	90.3	89.9

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

進学者数・進学率（現役）の推移（全体：東北：2013～2022年）

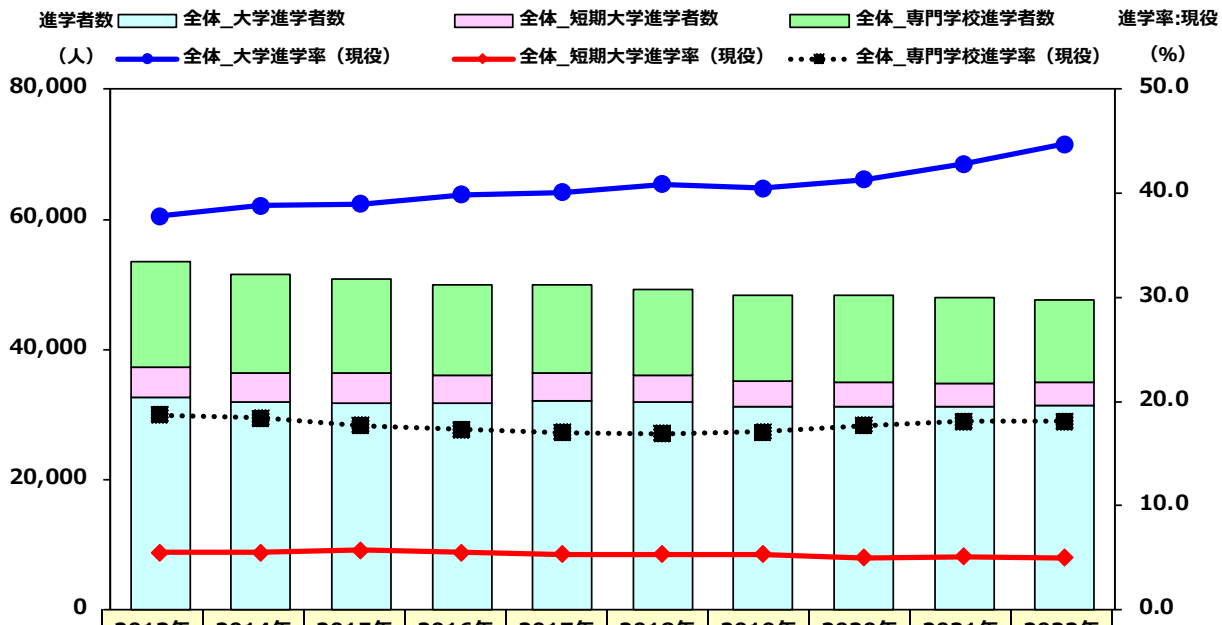
■10年で大学進学率は6.9ポイント上昇しているが、進学者数は全校種で減少（合計5,940人減少）

進学者数

・大学は、2013年32,612人→2022年31,383人（1,229人減少）と、3.8%減少。
・短期大学は、2013年4,716人→2022年3,515人（1,201人減少）と、25.5%減少。
・専門学校は、2013年16,183人→2022年12,673人（3,510人減少）と、21.7%減少。

進学率（現役）

・大学は、2013年37.8%→2022年44.7%（6.9ポイント上昇）。
・短期大学は、2013年5.5%→2022年5.0%（0.5ポイント低下）。
・専門学校は、2013年18.7%→2022年18.1%（0.6ポイント低下）。



			2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
東北	卒業者数		86,383	82,082	81,613	79,667	79,823	77,979	76,913	75,637	72,651	70,208
	進学者数	大学	32,612	31,846	31,806	31,751	32,043	31,858	31,142	31,215	31,129	31,383
		短期大学	4,716	4,495	4,641	4,358	4,259	4,097	4,046	3,801	3,713	3,515
		専門学校	16,183	15,131	14,429	13,758	13,593	13,206	13,176	13,356	13,134	12,673
	進学率（現役）	大学	37.8	38.8	39.0	39.9	40.1	40.9	40.5	41.3	42.8	44.7
		短期大学	5.5	5.5	5.7	5.5	5.3	5.3	5.3	5.0	5.1	5.0
		専門学校	18.7	18.4	17.7	17.3	17.0	16.9	17.1	17.7	18.1	18.1

※データ元：文部科学省「学校基本調査」
・卒業者数　　：高等学校卒業した数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程）
・進学者数　　：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した数
・進学率（現役）：進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業者数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程）
※専門学校＝専修学校専門課程

進学者数・進学率（現役）の推移（全体：県別：2013～2022年）

			2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
青森	卒業者数		13,330	12,594	12,547	12,242	12,094	11,717	11,474	11,314	10,798	10,337
	進学者数	大学	4,532	4,462	4,549	4,525	4,581	4,741	4,579	4,616	4,672	4,737
		短期大学	843	793	814	678	672	607	598	534	519	497
		専門学校	2,054	1,958	1,822	1,868	1,827	1,696	1,702	1,785	1,754	1,676
	進学率（現役）	大学	34.0	35.4	36.3	37.0	37.9	40.5	39.9	40.8	43.3	45.8
		短期大学	6.3	6.3	6.5	5.5	5.6	5.2	5.2	4.7	4.8	4.8
		専門学校	15.4	15.5	14.5	15.3	15.1	14.5	14.8	15.8	16.2	16.2
岩手	卒業者数		12,581	11,892	11,705	11,390	11,558	11,162	11,172	10,876	10,345	10,017
	進学者数	大学	4,254	4,224	4,169	4,266	4,375	4,319	4,244	4,282	4,137	4,085
		短期大学	734	714	729	658	565	549	540	532	468	491
		専門学校	2,686	2,442	2,336	2,166	2,013	2,251	2,202	2,162	2,021	2,153
	進学率（現役）	大学	33.8	35.5	35.6	37.5	37.9	38.7	38.0	39.4	40.0	40.8
		短期大学	5.8	6.0	6.2	5.8	4.9	4.9	4.8	4.9	4.5	4.9
		専門学校	21.3	20.5	20.0	19.0	17.4	20.2	19.7	19.9	19.5	21.5
宮城	卒業者数		20,453	19,851	19,983	19,749	19,967	19,877	19,629	19,363	18,933	18,559
	進学者数	大学	9,020	8,836	8,927	9,003	9,025	8,942	8,850	8,807	8,869	9,194
		短期大学	741	739	802	755	801	851	848	846	920	788
		専門学校	3,619	3,382	3,283	3,029	3,134	3,223	3,332	3,454	3,396	3,228
	進学率（現役）	大学	44.1	44.5	44.7	45.6	45.2	45.0	45.1	45.5	46.8	49.5
		短期大学	3.6	3.7	4.0	3.8	4.0	4.3	4.3	4.4	4.9	4.2
		専門学校	17.7	17.0	16.4	15.3	15.7	16.2	17.0	17.8	17.9	17.4
秋田	卒業者数		9,776	9,089	8,899	8,695	8,524	8,313	7,939	7,814	7,392	7,055
	進学者数	大学	3,483	3,399	3,296	3,245	3,244	3,231	3,064	3,039	3,064	2,924
		短期大学	690	625	646	620	601	522	530	455	475	466
		専門学校	1,800	1,683	1,540	1,569	1,446	1,407	1,359	1,372	1,349	1,217
	進学率（現役）	大学	35.6	37.4	37.0	37.3	38.1	38.9	38.6	38.9	41.5	41.4
		短期大学	7.1	6.9	7.3	7.1	7.1	6.3	6.7	5.8	6.4	6.6
		専門学校	18.4	18.5	17.3	18.0	17.0	16.9	17.1	17.6	18.2	17.3
山形	卒業者数		11,176	10,553	10,632	10,204	10,073	9,943	9,849	9,791	9,381	8,998
	進学者数	大学	4,232	4,041	4,069	3,864	3,876	3,865	3,736	3,912	3,821	3,924
		短期大学	649	610	656	639	628	570	590	540	474	462
		専門学校	2,144	1,998	1,952	1,909	1,859	1,729	1,823	1,872	1,858	1,726
	進学率（現役）	大学	37.9	38.3	38.3	37.9	38.5	38.9	37.9	40.0	40.7	43.6
		短期大学	5.8	5.8	6.2	6.3	6.2	5.7	6.0	5.5	5.1	5.1
		専門学校	19.2	18.9	18.4	18.7	18.5	17.4	18.5	19.1	19.8	19.2
福島	卒業者数		19,067	18,103	17,847	17,387	17,607	16,967	16,850	16,479	15,802	15,242
	進学者数	大学	7,091	6,884	6,796	6,848	6,942	6,760	6,669	6,559	6,566	6,519
		短期大学	1,059	1,014	994	1,008	992	998	940	894	857	811
		専門学校	3,880	3,668	3,496	3,217	3,314	2,900	2,758	2,711	2,756	2,673
	進学率（現役）	大学	37.2	38.0	38.1	39.4	39.4	39.8	39.6	39.8	41.6	42.8
		短期大学	5.6	5.6	5.6	5.8	5.6	5.9	5.6	5.4	5.4	5.3
		専門学校	20.3	20.3	19.6	18.5	18.8	17.1	16.4	16.5	17.4	17.5

※データ元：文部科学省「学校基本調査」
・卒業者数　　：高等学校卒業した数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程）
・進学者数　　：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した数
・進学率（現役）：進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業者数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程）
※専門学校＝専修学校専門課程

進学者数・進学率（現役）の推移（男子：東北：2013～2022年）

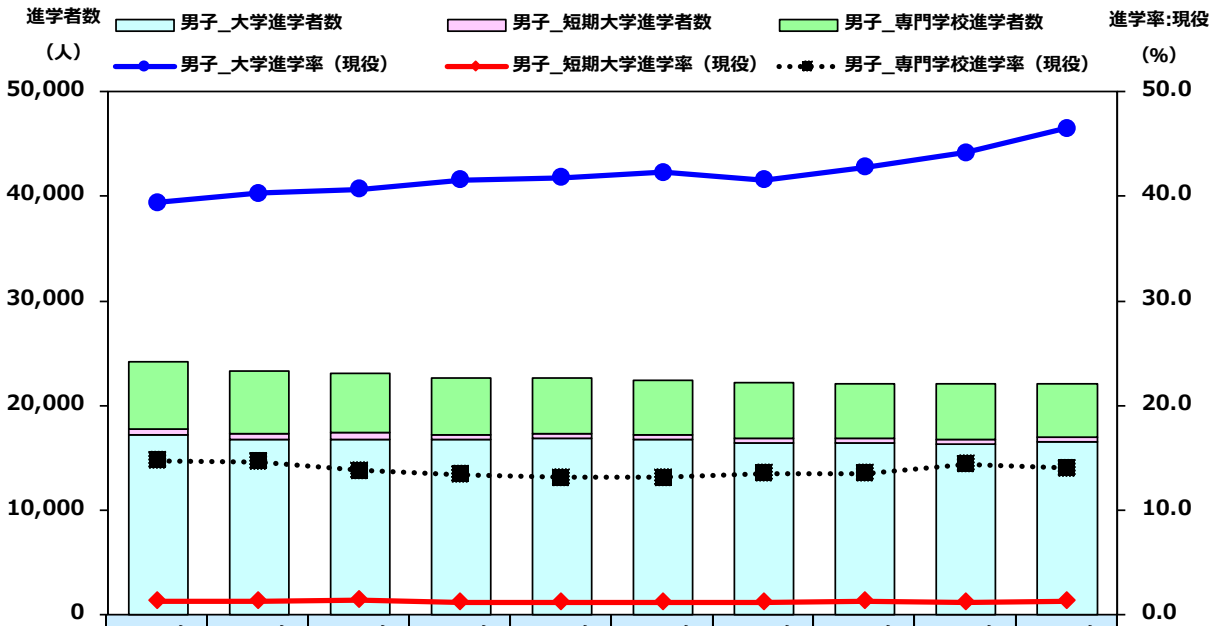
■男子では、大学進学率は7.1ポイント上昇しているが、進学者数は全校種で減少（合計2,162人減少）

進学者数

・大学は、2013年17,201人→2022年16,555人（646人減少）と、3.8%減少。
・短期大学は、2013年568人→2022年471人（97人減少）と、17.1%減少。
・専門学校は、2013年6,424人→2022年5,005人 （1,419人減少）と、22.1%減少。

進学率（現役）

・大学は、2013年39.4%→2022年46.5%（7.1ポイント上昇）。
・短期大学は、2013年1.3%→2022年1.3%（変動なし）。
・専門学校は、2013年14.7%→2022年14.0%（0.7ポイント低下）。



			2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
東北	卒業者数		43,664	41,500	41,279	40,223	40,333	39,623	39,345	38,273	36,994	35,625
	進学者数	大学	17,201	16,707	16,783	16,752	16,840	16,760	16,387	16,394	16,335	16,555
		短期大学	568	547	589	491	497	459	463	479	459	471
		専門学校	6,424	6,079	5,717	5,399	5,297	5,186	5,317	5,155	5,323	5,005
	進学率（現役）	大学	39.4	40.3	40.7	41.6	41.8	42.3	41.6	42.8	44.2	46.5
		短期大学	1.3	1.3	1.4	1.2	1.2	1.2	1.2	1.3	1.2	1.3
		専門学校	14.7	14.6	13.8	13.4	13.1	13.1	13.5	13.5	14.4	14.0

※データ元：文部科学省「学校基本調査」
・卒業者数　　：高等学校卒業した数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程）
・進学者数　　：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した数
・進学率（現役）：進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業者数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程）
※専門学校＝専修学校専門課程

進学者数・進学率（現役）の推移（男子：県別：2013～2022年）

			2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
青森	卒業者数		6,817	6,264	6,451	6,190	6,053	5,934	5,855	5,798	5,604	5,270
	進学者数	大学	2,480	2,288	2,429	2,356	2,375	2,481	2,430	2,468	2,464	2,484
		短期大学	86	105	110	69	73	79	81	77	75	85
		専門学校	806	671	698	683	664	621	626	659	671	609
	進学率（現役）	大学	36.4	36.5	37.7	38.1	39.2	41.8	41.5	42.6	44.0	47.1
		短期大学	1.3	1.7	1.7	1.1	1.2	1.3	1.4	1.3	1.3	1.6
		専門学校	11.8	10.7	10.8	11.0	11.0	10.5	10.7	11.4	12.0	11.6
岩手	卒業者数		6,313	6,128	5,968	5,788	5,896	5,694	5,786	5,487	5,257	5,201
	進学者数	大学	2,180	2,236	2,252	2,229	2,248	2,229	2,198	2,212	2,122	2,138
		短期大学	148	123	123	131	99	99	88	108	97	102
		専門学校	1,103	1,046	1,014	949	832	942	932	841	804	902
	進学率（現役）	大学	34.5	36.5	37.7	38.5	38.1	39.1	38.0	40.3	40.4	41.1
		短期大学	2.3	2.0	2.1	2.3	1.7	1.7	1.5	2.0	1.8	2.0
		専門学校	17.5	17.1	17.0	16.4	14.1	16.5	16.1	15.3	15.3	17.3
宮城	卒業者数		10,278	10,010	10,022	9,925	10,045	10,079	9,888	9,777	9,584	9,368
	進学者数	大学	4,691	4,621	4,660	4,706	4,720	4,692	4,612	4,643	4,718	4,887
		短期大学	77	96	92	78	110	78	84	99	97	84
		専門学校	1,437	1,364	1,276	1,153	1,233	1,280	1,330	1,334	1,411	1,247
	進学率（現役）	大学	45.6	46.2	46.5	47.4	47.0	46.6	46.6	47.5	49.2	52.2
		短期大学	0.7	1.0	0.9	0.8	1.1	0.8	0.8	1.0	1.0	0.9
		専門学校	14.0	13.6	12.7	11.6	12.3	12.7	13.5	13.6	14.7	13.3
秋田	卒業者数		4,836	4,628	4,485	4,300	4,283	4,219	4,068	3,909	3,701	3,575
	進学者数	大学	1,757	1,812	1,720	1,718	1,711	1,675	1,580	1,550	1,586	1,543
		短期大学	98	91	101	67	71	70	70	63	60	63
		専門学校	630	657	590	583	529	518	536	545	515	457
	進学率（現役）	大学	36.3	39.2	38.4	40.0	39.9	39.7	38.8	39.7	42.9	43.2
		短期大学	2.0	2.0	2.3	1.6	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.8
		専門学校	13.0	14.2	13.2	13.6	12.4	12.3	13.2	13.9	13.9	12.8
山形	卒業者数		5,670	5,326	5,420	5,220	5,105	5,066	5,020	4,949	4,805	4,532
	進学者数	大学	2,241	2,117	2,151	2,040	2,063	2,017	1,956	2,067	1,995	2,040
		短期大学	69	64	77	66	85	54	73	62	46	62
		専門学校	821	759	745	765	695	689	705	669	750	695
	進学率（現役）	大学	39.5	39.7	39.7	39.1	40.4	39.8	39.0	41.8	41.5	45.0
		短期大学	1.2	1.2	1.4	1.3	1.7	1.1	1.5	1.3	1.0	1.4
		専門学校	14.5	14.3	13.7	14.7	13.6	13.6	14.0	13.5	15.6	15.3
福島	卒業者数		9,750	9,144	8,933	8,800	8,951	8,631	8,728	8,353	8,043	7,679
	進学者数	大学	3,852	3,633	3,571	3,703	3,723	3,666	3,611	3,454	3,450	3,463
		短期大学	90	68	86	80	59	79	67	70	84	75
		専門学校	1,627	1,582	1,394	1,266	1,344	1,136	1,188	1,107	1,172	1,095
	進学率（現役）	大学	39.5	39.7	40.0	42.1	41.6	42.5	41.4	41.4	42.9	45.1
		短期大学	0.9	0.7	1.0	0.9	0.7	0.9	0.8	0.8	1.0	1.0
		専門学校	16.7	17.3	15.6	14.4	15.0	13.2	13.6	13.3	14.6	14.3

※データ元：文部科学省「学校基本調査」
・卒業者数　　：高等学校卒業した数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程）
・進学者数　　：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した数
・進学率（現役）：進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業者数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程）
※専門学校＝専修学校専門課程

進学者数・進学率（現役）の推移（女子：東北：2013～2022年）

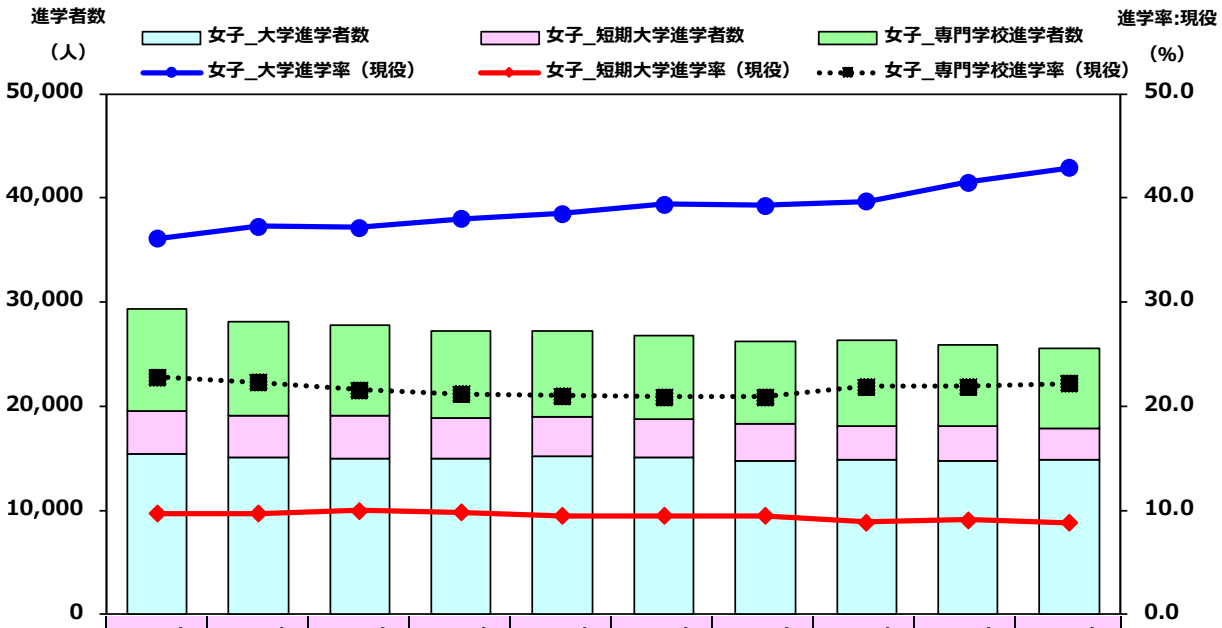
■女子では、大学進学率は6.8ポイント上昇しているが、進学者数は全校種で減少（合計3,778人減少）

進学者数

・大学は、2013年15,411人→2022年14,828人（583人減少）と、3.8%減少。
・短期大学は、2013年4,148人→2022年3,044人（1,104人減少）と、26.6%減少。
・専門学校は、2013年9,759人→2022年7,668人（2,091人減少）と、21.4%減少。

進学率（現役）

・大学は、2013年36.1%→2022年42.9%（6.8ポイント上昇）。
・短期大学は、2013年9.7%→2022年8.8%（0.9ポイント低下）。
・専門学校は、2013年22.8%→2022年22.2%（0.6ポイント低下）。



			2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
東北	卒業者数		42,719	40,582	40,334	39,444	39,490	38,356	37,568	37,364	35,657	34,583
	進学者数	大学	15,411	15,139	15,023	14,999	15,203	15,098	14,755	14,821	14,794	14,828
		短期大学	4,148	3,948	4,052	3,867	3,762	3,638	3,583	3,322	3,254	3,044
		専門学校	9,759	9,052	8,712	8,359	8,296	8,020	7,859	8,201	7,811	7,668
	進学率（現役）	大学	36.1	37.3	37.2	38.0	38.5	39.4	39.3	39.7	41.5	42.9
		短期大学	9.7	9.7	10.0	9.8	9.5	9.5	9.5	8.9	9.1	8.8
		専門学校	22.8	22.3	21.6	21.2	21.0	20.9	20.9	21.9	21.9	22.2

※データ元：文部科学省「学校基本調査」
・卒業者数　　：高等学校卒業した数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程）
・進学者数　　：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した数
・進学率（現役）：進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業者数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程）
※専門学校＝専修学校専門課程

進学者数・進学率（現役）の推移（女子：県別：2013～2022年）

			2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
青森	卒業者数		6,513	6,330	6,096	6,052	6,041	5,783	5,619	5,516	5,194	5,067
	進学者数	大学	2,052	2,174	2,120	2,169	2,206	2,260	2,149	2,148	2,208	2,253
		短期大学	757	688	704	609	599	528	517	457	444	412
		専門学校	1,248	1,287	1,124	1,185	1,163	1,075	1,076	1,126	1,083	1,067
	進学率（現役）	大学	31.5	34.3	34.8	35.8	36.5	39.1	38.2	38.9	42.5	44.5
		短期大学	11.6	10.9	11.5	10.1	9.9	9.1	9.2	8.3	8.5	8.1
		専門学校	19.2	20.3	18.4	19.6	19.3	18.6	19.1	20.4	20.9	21.1
岩手	卒業者数		6,268	5,764	5,737	5,602	5,662	5,468	5,386	5,389	5,088	4,816
	進学者数	大学	2,074	1,988	1,917	2,037	2,127	2,090	2,046	2,070	2,015	1,947
		短期大学	586	591	606	527	466	450	452	424	371	389
		専門学校	1,583	1,396	1,322	1,217	1,181	1,309	1,270	1,321	1,217	1,251
	進学率（現役）	大学	33.1	34.5	33.4	36.4	37.6	38.2	38.0	38.4	39.6	40.4
		短期大学	9.3	10.3	10.6	9.4	8.2	8.2	8.4	7.9	7.3	8.1
		専門学校	25.3	24.2	23.0	21.7	20.9	23.9	23.6	24.5	23.9	26.0
宮城	卒業者数		10,175	9,841	9,961	9,824	9,922	9,798	9,741	9,586	9,349	9,191
	進学者数	大学	4,329	4,215	4,267	4,297	4,305	4,250	4,238	4,164	4,151	4,307
		短期大学	664	643	710	677	691	773	764	747	823	704
		専門学校	2,182	2,018	2,007	1,876	1,901	1,943	2,002	2,120	1,985	1,981
	進学率（現役）	大学	42.5	42.8	42.8	43.7	43.4	43.4	43.5	43.4	44.4	46.9
		短期大学	6.5	6.5	7.1	6.9	7.0	7.9	7.8	7.8	8.8	7.7
		専門学校	21.4	20.5	20.1	19.1	19.2	19.8	20.6	22.1	21.2	21.6
秋田	卒業者数		4,940	4,461	4,414	4,395	4,241	4,094	3,871	3,905	3,691	3,480
	進学者数	大学	1,726	1,587	1,576	1,527	1,533	1,556	1,484	1,489	1,478	1,381
		短期大学	592	534	545	553	530	452	460	392	415	403
		専門学校	1,170	1,026	950	986	917	889	823	827	834	760
	進学率（現役）	大学	34.9	35.6	35.7	34.7	36.1	38.0	38.3	38.1	40.0	39.7
		短期大学	12.0	12.0	12.3	12.6	12.5	11.0	11.9	10.0	11.2	11.6
		専門学校	23.7	23.0	21.5	22.4	21.6	21.7	21.3	21.2	22.6	21.8
山形	卒業者数		5,506	5,227	5,212	4,984	4,968	4,877	4,829	4,842	4,576	4,466
	進学者数	大学	1,991	1,924	1,918	1,824	1,813	1,848	1,780	1,845	1,826	1,884
		短期大学	580	546	579	573	543	516	517	478	428	400
		専門学校	1,323	1,239	1,207	1,144	1,164	1,040	1,118	1,203	1,108	1,031
	進学率（現役）	大学	36.2	36.8	36.8	36.6	36.5	37.9	36.9	38.1	39.9	42.2
		短期大学	10.5	10.4	11.1	11.5	10.9	10.6	10.7	9.9	9.4	9.0
		専門学校	24.0	23.7	23.2	23.0	23.4	21.3	23.2	24.8	24.2	23.1
福島	卒業者数		9,317	8,959	8,914	8,587	8,656	8,336	8,122	8,126	7,759	7,563
	進学者数	大学	3,239	3,251	3,225	3,145	3,219	3,094	3,058	3,105	3,116	3,056
		短期大学	969	946	908	928	933	919	873	824	773	736
		専門学校	2,253	2,086	2,102	1,951	1,970	1,764	1,570	1,604	1,584	1,578
	進学率（現役）	大学	34.8	36.3	36.2	36.6	37.2	37.1	37.7	38.2	40.2	40.4
		短期大学	10.4	10.6	10.2	10.8	10.8	11.0	10.7	10.1	10.0	9.7
		専門学校	24.2	23.3	23.6	22.7	22.8	21.2	19.3	19.7	20.4	20.9

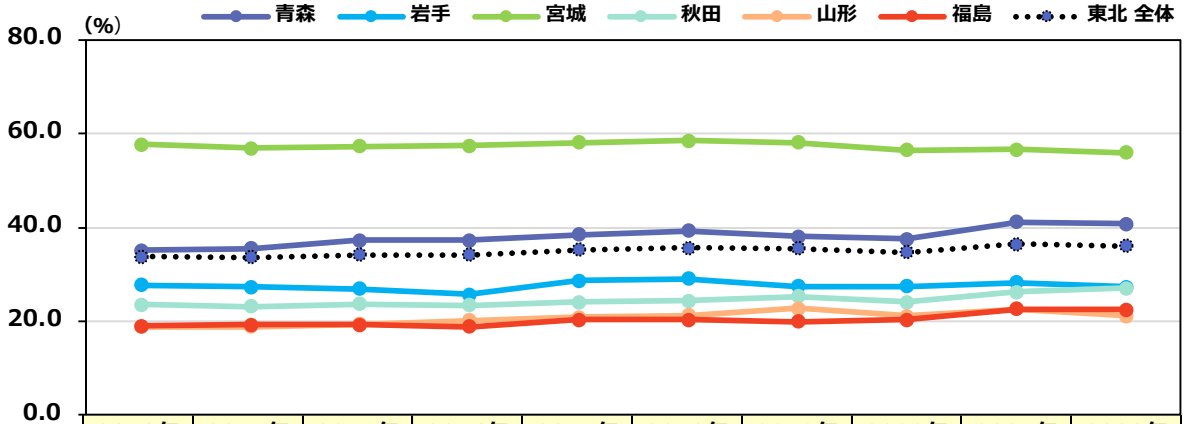
※データ元：文部科学省「学校基本調査」
・卒業者数　　：高等学校卒業した数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程）
・進学者数　　：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した数
・進学率（現役）：進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業者数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程）
※専門学校＝専修学校専門課程

地元残留率の推移　（全体：東北：2013～2022年）

■大学は、2013年33.7%→2022年36.0%（2.3ポイント上昇）
短期大学は、2013年66.3%→2022年70.4%（4.1ポイント上昇）

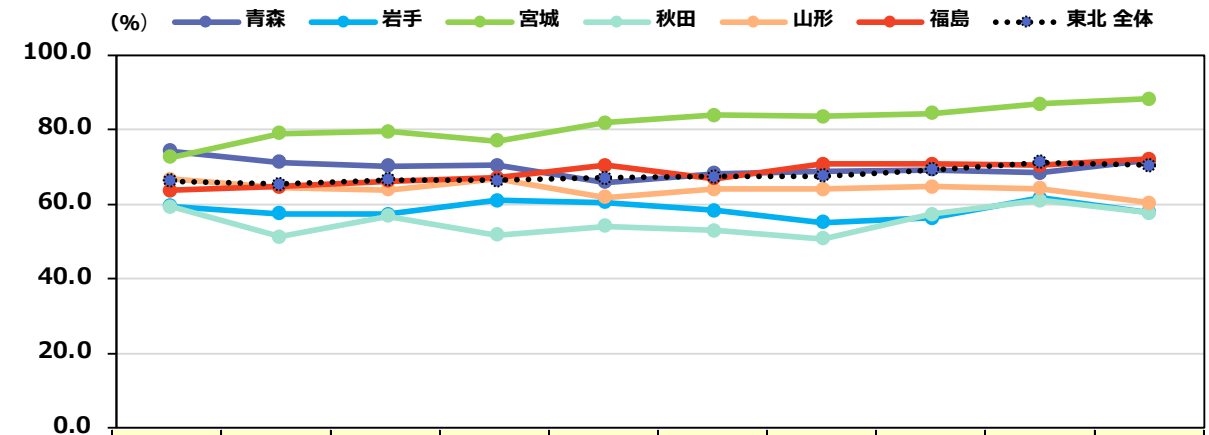
・大学で上昇率が高いのは、青森県（2013年35.1%→2022年40.7%、5.6ポイント上昇）。
・短期大学で上昇率が高いのは、宮城県（2013年72.6%→2022年88.2%、15.6ポイント上昇）。

大学全体：地元残留率



	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
東北	33.7	33.6	34.1	34.1	35.2	35.7	35.5	34.7	36.4	36.0
青森	35.1	35.5	37.3	37.3	38.5	39.3	38.0	37.5	41.1	40.7
岩手	27.7	27.3	26.9	25.7	28.7	29.0	27.5	27.4	28.3	27.3
宮城	57.6	56.9	57.3	57.4	58.1	58.4	58.1	56.5	56.6	55.9
秋田	23.5	23.1	23.7	23.4	24.1	24.3	25.3	24.1	26.3	27.0
山形	18.9	18.9	19.4	20.2	20.9	21.3	22.7	21.2	22.6	21.1
福島	19.0	19.3	19.2	18.9	20.3	20.4	20.0	20.3	22.6	22.5

短期大学全体：地元残留率



	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
東北	66.3	65.4	66.5	66.4	67.1	67.4	67.6	69.3	71.3	70.4
青森	74.3	71.2	70.3	70.5	65.9	68.3	69.0	69.3	68.4	71.7
岩手	59.5	57.5	57.4	61.1	60.6	58.3	55.2	56.3	61.7	57.8
宮城	72.6	79.0	79.5	77.0	81.9	83.8	83.5	84.4	86.9	88.2
秋田	59.4	51.3	56.9	51.8	54.2	52.9	50.8	57.4	61.0	57.6
山形	66.8	64.6	63.9	66.8	61.9	64.0	64.1	64.8	64.2	60.4
福島	63.7	64.8	66.2	67.1	70.4	66.9	70.8	70.7	70.5	72.2

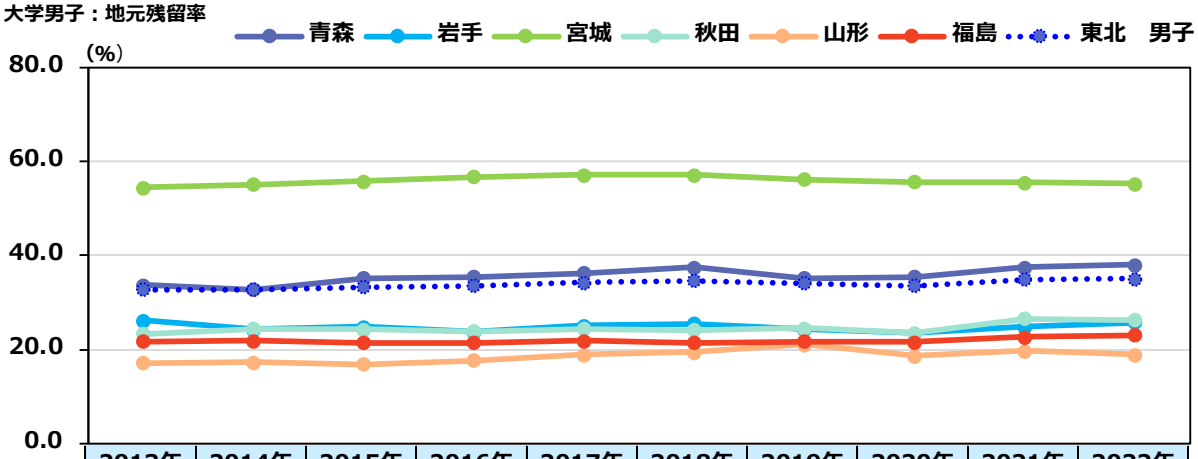
※データ元：文部科学省「学校基本調査」
・残留率　：自県内（地元）の大学・短期大学入学者数のうち自県内（地元）の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合（浪人含）

地元残留率の推移　（男子：東北：2013～2022年）

■大学は、2013年32.7%→2022年35.0%（2.3ポイント上昇）
短期大学は、2013年60.3%→2022年66.2%（5.9ポイント上昇）

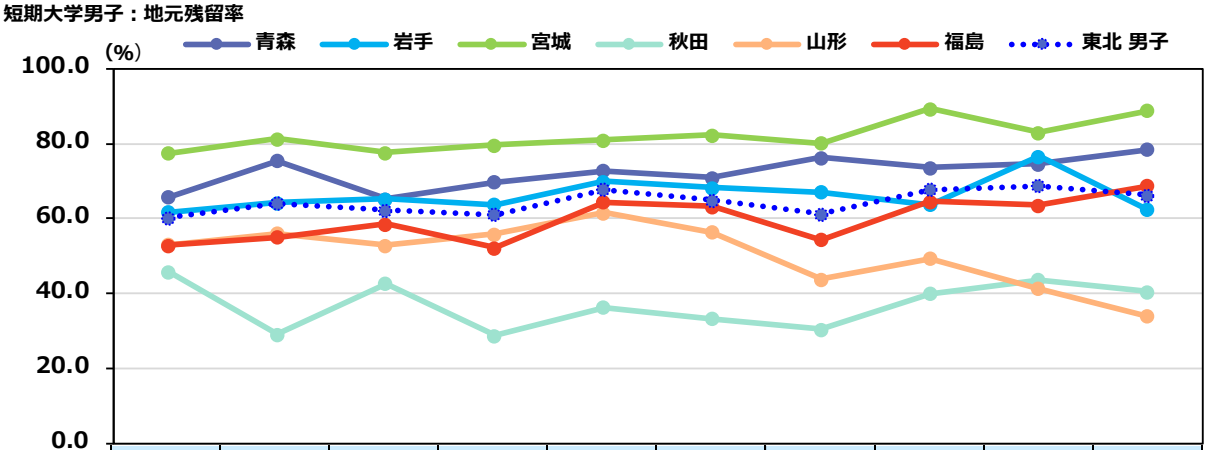
・大学で上昇率が高いのは、青森県（2013年33.7%→2022年38.0%、4.3ポイント上昇）。
・短期大学で上昇率が高いのは、福島県（2013年52.9%→2022年68.8%、15.9ポイント上昇）。

大学男子：地元残留率



	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
東北	32.7	32.7	33.3	33.6	34.2	34.6	34.1	33.6	34.9	35.0
青森	33.7	32.8	35.2	35.5	36.3	37.5	35.2	35.4	37.4	38.0
岩手	26.1	24.3	24.8	23.7	25.1	25.5	24.2	23.5	24.8	25.8
宮城	54.4	55.1	55.8	56.7	57.1	57.1	56.2	55.6	55.5	55.2
秋田	23.3	24.4	24.3	23.8	24.4	24.1	24.5	23.5	26.5	26.3
山形	17.1	17.3	16.9	17.7	18.9	19.4	21.1	18.6	19.7	18.9
福島	21.7	21.8	21.4	21.5	21.8	21.4	21.7	21.6	22.7	23.0

短期大学男子：地元残留率



	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
東北	60.3	64.0	62.2	61.0	67.7	64.9	61.2	67.7	68.8	66.2
青森	65.8	75.5	65.2	69.8	72.8	71.0	76.3	73.7	74.7	78.4
岩手	61.8	64.2	65.3	63.8	69.9	68.2	67.1	63.8	76.7	62.4
宮城	77.5	81.4	77.6	79.6	81.0	82.3	80.2	89.3	83.0	88.8
秋田	45.8	29.0	42.6	28.8	36.2	33.3	30.4	40.0	43.6	40.4
山形	53.1	56.1	52.8	55.9	61.5	56.4	43.8	49.3	41.3	33.9
福島	52.9	55.0	58.5	52.1	64.4	63.3	54.3	64.5	63.5	68.8

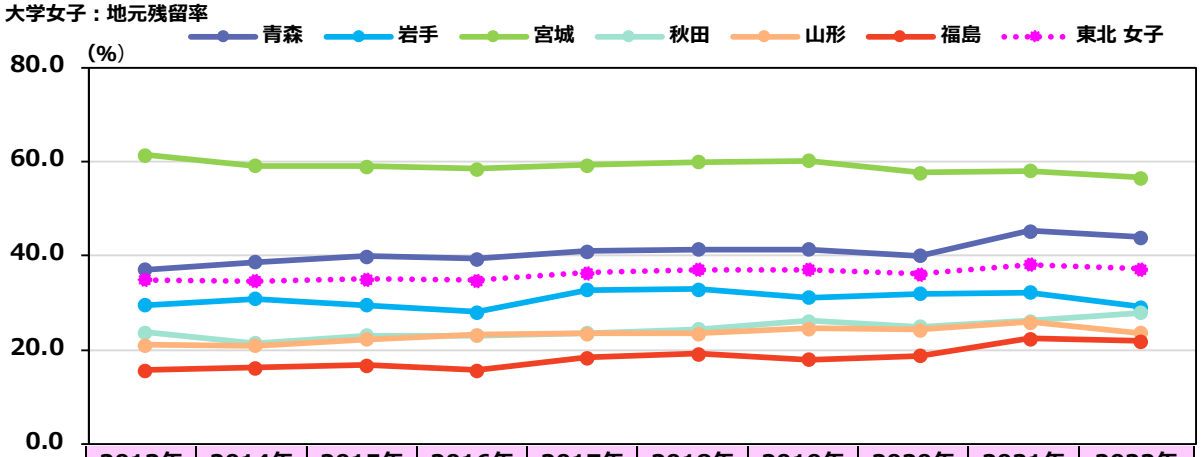
※データ元：文部科学省「学校基本調査」
・残留率　：自県内（地元）の大学・短期大学入学者数のうち自県内（地元）の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合（浪人含）

地元残留率の推移　（女子：東北：2013～2022年）

■大学は、2013年34.9%→2022年37.2%（2.3ポイント上昇）
短期大学は、2013年67.2%→2022年71.0%（3.8ポイント上昇）

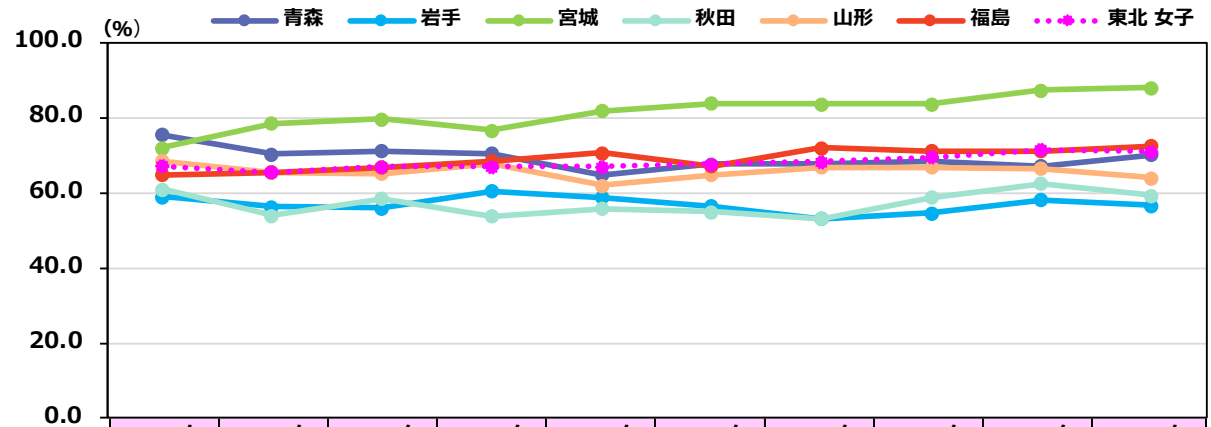
・大学で上昇率が高いのは、青森県（2013年37.0%→2022年43.9%、6.9ポイント上昇）。
・短期大学で上昇率が高いのは、宮城県（2013年72.0%→2022年88.1%、16.1ポイント上昇）。

大学女子：地元残留率



	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
東北	34.9	34.6	35.1	34.7	36.4	37.0	37.1	36.1	38.1	37.2
青森	37.0	38.7	39.9	39.3	41.0	41.4	41.4	40.0	45.3	43.9
岩手	29.5	30.9	29.5	28.1	32.7	32.9	31.1	31.9	32.2	29.1
宮城	61.4	59.1	59.0	58.4	59.3	59.9	60.2	57.6	58.0	56.6
秋田	23.7	21.5	23.1	23.0	23.6	24.4	26.2	24.9	26.2	27.9
山形	21.1	20.9	22.3	23.2	23.4	23.5	24.5	24.2	25.9	23.6
福島	15.7	16.2	16.7	15.7	18.3	19.1	17.9	18.8	22.4	21.8

短期大学女子：地元残留率

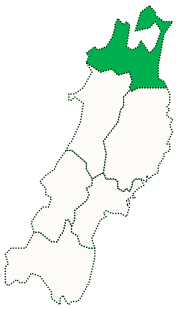


	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
東北	67.2	65.6	67.0	67.1	67.1	67.7	68.4	69.5	71.6	71.0
青森	75.5	70.4	71.2	70.6	64.9	67.8	67.7	68.4	67.3	70.2
岩手	59.0	56.3	56.1	60.5	58.8	56.5	53.2	54.7	58.2	56.7
宮城	72.0	78.6	79.8	76.7	82.0	83.9	83.8	83.7	87.4	88.1
秋田	61.0	54.0	58.6	53.8	55.8	55.0	53.2	58.8	62.5	59.4
山形	68.6	65.6	65.2	67.9	62.0	64.8	66.9	66.9	66.6	64.0
福島	64.8	65.5	66.9	68.6	70.8	67.3	72.1	71.3	71.3	72.5

※データ元：文部科学省「学校基本調査」
・残留率　：自県内（地元）の大学・短期大学入学者数のうち自県内（地元）の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合（浪人含）

東北エリア概要（全体：県別）

青森県



学校数
大学　　：10　（国立 1・公立 2・私立 7）
短期大学：5　（私立 5）
専門学校：23　（公立 4・私立 19）

卒業者数
2013年13,330人→2022年10,337人（2,993人減少）

進学者数
大学　　：2013年4,532人→2022年4,737人（205人増加）
短期大学：2013年　843人→2022年　497人（346人減少）
専門学校：2013年2,054人→2022年1,676人（378人減少）

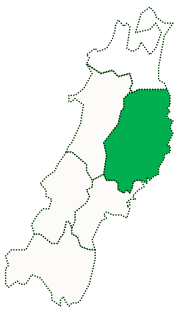
進学率（現役）
大学　　：2013年34.0%→2022年45.8%（11.8ポイント上昇）
短期大学：2013年　6.3%→2022年　4.8%（1.5ポイント低下）
専門学校：2013年15.4%→2022年16.2%（0.8ポイント上昇）

残留率
大学　　：2013年35.1%→2022年40.7%（5.6ポイント上昇）
短期大学：2013年74.3%→2022年71.7%（2.6ポイント低下）

入学者流入元　※地元は除く
大学　　：1位北海道（389人）、2位岩手（245人）、3位秋田（171人）
短期大学：1位秋田　（23人）、2位岩手　（15人）、3位福島　（3人）

入学者流出先　※地元は除く
大学　　：1位宮城　（610人）、2位東京（591人）、3位北海道（366人）
短期大学：1位宮城　（63人）、2位岩手　（21人）、3位東京　（15人）

岩手県



学校数
大学　　：6　（国立 1・公立 1・私立 4）
短期大学：4　（公立 2・私立 2）
専門学校：32　（公立 4・私立 28）

卒業者数
2013年12,581人→2022年10,017人（2,564人減少）

進学者数
大学　　：2013年4,254人→2022年4,085人（169人減少）
短期大学：2013年　734人→2022年　491人（243人減少）
専門学校：2013年2,686人→2022年2,153人（533人減少）

進学率（現役）
大学　　：2013年33.8%→2022年40.8%（7.0ポイント上昇）
短期大学：2013年　5.8%→2022年　4.9%（0.9ポイント低下）
専門学校：2013年21.3%→2022年21.5%（0.2ポイント上昇）

残留率
大学　　：2013年27.7%→2022年27.3%（0.4ポイント低下）
短期大学：2013年59.5%→2022年57.8%（1.7ポイント低下）

入学者流入元　※地元は除く
大学　　：1位宮城　（257人）、2位青森（231人）、3位秋田（153人）
短期大学：1位秋田　（36人）、2位青森　（21人）、3位宮城　（11人）

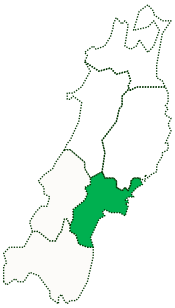
入学者流出先　※地元は除く
大学　　：1位宮城　（907人）、2位東京　（544人）、3位青森（245人）
短期大学：1位宮城　（87人）、2位山形　（27人）、3位福島　（18人）

・学校数　　：大学・短期大学は本部の所在地　（2022年学校基本調査より）
・卒業者数　：高等学校卒業した数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程）
・進学者数　：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した数
・進学率（現役）：進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業者数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程）
・残留率　：自県内（地元）の大学・短期大学入学者数のうち自県内（地元）の高校出身の大学・短期大学入学者の割合（浪人含）
・流入　　：自県内（地元）の大学・短期大学に入学したうち、自県以外（地元以外）の高校出身者が大学・短期大学に入学したこと（浪人含）
・流出　　：自県内（地元）の高校出身者が大学・短期大学に入学したうち、自県以外（地元以外）の大学・短期大学に入学したこと（浪人含）

※専門学校＝専修学校専門課程

東北エリア概要（全体：県別）

宮城県



学校数
大学　　：14　（国立 2・公立 1・私立 11）
短期大学：5　（私立 5）
専門学校：61　（公立 3・私立 58）

卒業者数
2013年20,453人→2022年18,559人（1,894人減少）

進学者数
大学　　：2013年9,020人→2022年9,194人（174人増加）
短期大学：2013年　741人→2022年　788人　（47人増加）
専門学校：2013年3,619人→2022年3,228人（391人減少）

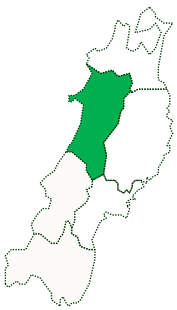
進学率（現役）
大学　　：2013年44.1%→2022年49.5%（5.4ポイント上昇）
短期大学：2013年　3.6%→2022年　4.2%（0.6ポイント上昇）
専門学校：2013年17.7%→2022年17.4%（0.3ポイント低下）

残留率
大学　　：2013年57.6%→2022年55.9%（　1.7ポイント低下）
短期大学：2013年72.6%→2022年88.2%（15.6ポイント上昇）

入学者流入元　※地元は除く
大学　　：1位福島　（986人）、2位岩手　（907人）、3位山形　（819人）
短期大学：1位岩手　（87人）、2位福島　（85人）、3位山形　（76人）

入学者流出先　※地元は除く
大学　　：1位東京（1,170人）、2位山形　（599人）、3位神奈川　（408人）
短期大学：1位福島　（25人）、2位東京　（20人）、3位山形　（12人）

秋田県



学校数
大学　　：7　（国立 1・公立 3・私立 3）
短期大学：4　（私立 4）
専門学校：13　（公立 1・私立 12）

卒業者数
2013年9,776人→2022年7,055人（2,721人減少）

進学者数
大学　　：2013年3,483人→2022年2,924人（559人減少）
短期大学：2013年　690人→2022年　466人（224人減少）
専門学校：2013年1,800人→2022年1,217人（583人減少）

進学率（現役）
大学　　：2013年35.6%→2022年41.4%（5.8ポイント上昇）
短期大学：2013年　7.1%→2022年　6.6%（0.5ポイント低下）
専門学校：2013年18.4%→2022年17.3%（1.1ポイント低下）

残留率
大学　　：2013年23.5%→2022年27.0%（3.5ポイント上昇）
短期大学：2013年59.4%→2022年57.6%（1.8ポイント低下）

入学者流入元　※地元は除く
大学　　：1位岩手（121人）、2位宮城（95人）、3位山形（89人）
短期大学：1位岩手　（4人）、2位山形　（2人）、3位宮城・茨城・鹿児島（1人）

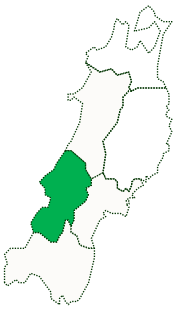
入学者流出先　※地元は除く
大学　　：1位宮城（495人）、2位東京（391人）、3位青森（171人）
短期大学：1位宮城　（62人）、2位岩手　（36人）、3位山形　（35人）

・学校数　　：大学・短期大学は本部の所在地　（2022年学校基本調査より）
・卒業者数　：高等学校卒業した数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程）
・進学者数　：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した数
・進学率（現役）：進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業者数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程）
・残留率　　：自県内（地元）の大学・短期大学入学者数のうち自県内（地元）の高校出身の大学・短期大学入学者の割合（浪人含）
・流入　　：自県内（地元）の大学・短期大学に入学したうち、自県以外（地元以外）の高校出身者が大学・短期大学に入学したこと（浪人含）
・流出　　：自県内（地元）の高校出身者が大学・短期大学に入学したうち、自県以外（地元以外）の大学・短期大学に入学したこと（浪人含）

※専門学校＝専修学校専門課程

東北エリア概要（全体：県別）

山形県



学校数
大学　　：6　（国立 1・公立 2・私立 3）
短期大学 ：3　（公立 1・私立 2）
専門学校 ：17（公立 4・私立 13）

卒業者数
2013年11,176人→2022年8,998人（2,178人減少）

進学者数
大学　　：2013年4,232人→2022年3,924人（308人減少）
短期大学：2013年　649人→2022年　462人（187人減少）
専門学校：2013年2,144人→2022年1,726人（418人減少）

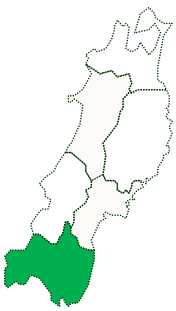
進学率（現役）
大学　　：2013年37.9%→2022年43.6%（5.7ポイント上昇）
短期大学：2013年　5.8%→2022年　5.1%（0.7ポイント低下）
専門学校：2013年19.2%→2022年19.2%（変動なし）

残留率
大学　　：2013年18.9%→2022年21.1%（2.2ポイント上昇）
短期大学：2013年66.8%→2022年60.4%（6.4ポイント低下）

入学者流入元　※地元は除く
大学　　：1位宮城　（599人）、2位福島（201人）、3位新潟（131人）
短期大学：1位福島　（40人）、2位秋田　（35人）、3位岩手　（27人）

入学者流出先　※地元は除く
大学　　：1位宮城（819人）、2位東京（616人）、3位新潟（309人）
短期大学：1位宮城　（76人）、2位福島　（28人）、3位新潟　（25人）

福島県



学校数
大学　　：8　　（国立 1・公立 2・私立 5）
短期大学 ：5　　（公立 1・私立 4 ）
専門学校 ：39　（公立 5・私立 34）

卒業者数
2013年19,067人→2022年15,242人（3,825人減少）

進学者数
大学　　：2013年7,091人→2022年6,519人（572人減少）
短期大学：2013年1,059人→2022年　811人（248人減少）
専門学校：2013年3,880人→2022年2,673人（1,207人減少）

進学率（現役）
大学　　：2013年37.2%→2022年42.8%（5.6ポイント上昇）
短期大学：2013年　5.6%→2022年　5.3%（0.3ポイント低下）
専門学校：2013年20.3%→2022年17.5%（2.8ポイント低下）

残留率
大学　　：2013年19.0%→2022年22.5%（3.5ポイント上昇）
短期大学：2013年63.7%→2022年72.2%（8.5ポイント上昇）

入学者流入元　※地元は除く
大学　　：1位茨城（304人）、2位宮城（255人）、3位栃木（204人）
短期大学：1位山形　（28人）、2位宮城　（25人）、3位岩手　（18人）

入学者流出先　※地元は除く
大学　　：1位東京（1,345人）、2位宮城（986人）、3位神奈川（511人）
短期大学：1位宮城　　（85人）、2位東京　（44人）、3位山形　　（40人）

・学校数　　：大学・短期大学は本部の所在地　（2022年学校基本調査より）
・卒業者数　：高等学校卒業した数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程）
・進学者数　：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した数
・進学率（現役）：進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業者数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程）
・残留率　　：自県内（地元）の大学・短期大学入学者数のうち自県内（地元）の高校出身の大学・短期大学入学者の割合（浪人含）
・流入　　：自県内（地元）の大学・短期大学に入学したうち、自県以外（地元以外）の高校出身者が大学・短期大学に入学したこと（浪人含）
・流出　　：自県内（地元）の高校出身者が大学・短期大学に入学したうち、自県以外（地元以外）の大学・短期大学に入学したこと（浪人含）

※専門学校＝専修学校専門課程

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２

大学学部学科等名：国際資源学部 国際資源学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		16人	16人	18人	18人	18人	17人
	延べ人数	志願者数	27人	31人	30人	23人	28人	28人
		受験者数	27人	31人	30人	23人	28人	28人
		合格者数	14人	13人	17人	17人	19人	16人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数			1人			0人
	実人数	志願者数	27人	31人	30人	23人	28人	28人
		受験者数	27人	31人	30人	23人	28人	28人
		合格者数	14人	13人	17人	17人	19人	16人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数			1人			0人
	入学者数		14人	13人	16人	17人	19人	16人
学校推薦型選抜	募集人数		13人	13人	13人	13人	13人	13人
	延べ人数	志願者数	19人	19人	15人	13人	27人	19人
		受験者数	19人	19人	14人	13人	26人	18人
		合格者数	12人	8人	13人	10人	14人	11人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数						0人
	実人数	志願者数	19人	19人	15人	13人	27人	19人
		受験者数	19人	19人	14人	13人	26人	18人
		合格者数	12人	8人	13人	10人	14人	11人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数						0人
	入学者数		12人	8人	13人	10人	14人	11人
一般選抜	募集人数		86人	86人	84人	84人	84人	85人
	延べ人数	志願者数	412人	401人	281人	346人	296人	347人
		受験者数	245人	259人	161人	214人	140人	204人
		合格者数	113人	115人	110人	106人	95人	108人
		うち追加合格者数					2人	0人
		辞退者数	16人	11人	13人	13人	12人	13人
	実人数	志願者数	412人	401人	281人	346人	296人	347人
		受験者数	245人	259人	161人	214人	140人	204人
		合格者数	113人	115人	110人	106人	95人	108人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数	16人	11人	13人	13人	12人	13人
	入学者数		97人	104人	97人	93人	83人	95人
その他の特別選抜	募集人数		5人	5人	5人	5人	5人	5人
	延べ人数	志願者数	7人	8人	5人	5人	1人	5人
		受験者数	6人	6人	4人	4人	1人	4人
		合格者数	4人	3人	2人	3人	1人	3人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数	1人	2人	1人	2人		1人
	実人数	志願者数	7人	8人	5人	5人	1人	5人
		受験者数	6人	6人	4人	4人	1人	4人
		合格者数	4人	3人	2人	3人	1人	3人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数	1人	2人	1人	2人		1人
	入学者数		3人	1人	1人	1人	1人	1人
合計	募集人数		120人	120人	120人	120人	120人	120人
	延べ人数	志願者数	465人	459人	331人	387人	352人	399人
		受験者数	297人	315人	209人	254人	195人	254人
		合格者数	143人	139人	142人	136人	129人	138人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	2人	0人
		辞退者数	17人	13人	15人	15人	12人	14人
	実人数	志願者数	465人	459人	331人	387人	352人	399人
		受験者数	297人	315人	209人	254人	195人	254人
		合格者数	143人	139人	142人	136人	129人	138人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	2人	0人
		辞退者数	17人	13人	15人	15人	12人	14人
	入学者数		126人	126人	127人	121人	117人	123人

３．入学定員充足率

	H30年度入試	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	平　均
入学定員	120人	120人	120人	120人	120人	120
入学定員充足率	1.05	1.05	1.06	1.01	0.98	1.03
歩留率	0.88	0.91	0.89	0.89	0.91	0.90

※令和２年度以前のAO入試は総合型入試として集計した。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２

大学学部学科等名：教育文化学部 学校教育課程

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数							0人
	延べ人数	志願者数						0人
		受験者数						0人
		合格者数						0人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数						0人
	実人数	志願者数						0人
		受験者数						0人
		合格者数						0人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数						0人
	入学者数							0人
学校推薦型選抜	募集人数		25人	25人	25人	25人	25人	25人
	延べ人数	志願者数	79人	80人	68人	73人	61人	72人
		受験者数	79人	80人	68人	73人	61人	72人
		合格者数	25人	26人	25人	25人	25人	25人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数						0人
	実人数	志願者数	79人	80人	68人	73人	61人	72人
		受験者数	79人	80人	68人	73人	61人	72人
		合格者数	25人	26人	25人	25人	25人	25人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数						0人
	入学者数		25人	26人	25人	25人	25人	25人
一般選抜	募集人数		85人	85人	85人	85人	85人	85人
	延べ人数	志願者数	526人	430人	468人	403人	335人	432人
		受験者数	333人	246人	253人	226人	182人	248人
		合格者数	93人	93人	95人	93人	90人	93人
		うち追加合格者数	1人	1人	1人			1人
		辞退者数	7人	6人	3人	3人	2人	4人
	実人数	志願者数	526人	430人	468人	403人	335人	432人
		受験者数	333人	246人	253人	226人	182人	248人
		合格者数	93人	93人	95人	93人	90人	93人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数	7人	6人	3人	3人	2人	4人
	入学者数		86人	87人	92人	90人	88人	89人
その他の特別選抜	募集人数							0人
	延べ人数	志願者数						0人
		受験者数						0人
		合格者数						0人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数						0人
	実人数	志願者数						0人
		受験者数						0人
		合格者数						0人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数						0人
	入学者数							0人
合計	募集人数		110人	110人	110人	110人	110人	110人
	延べ人数	志願者数	605人	510人	536人	476人	396人	505人
		受験者数	412人	326人	321人	299人	243人	320人
		合格者数	118人	119人	120人	118人	115人	118人
		うち追加合格者数	1人	1人	1人	0人	0人	1人
		辞退者数	7人	6人	3人	3人	2人	4人
	実人数	志願者数	605人	510人	536人	476人	396人	505人
		受験者数	412人	326人	321人	299人	243人	320人
		合格者数	118人	119人	120人	118人	115人	118人
		うち追加合格者数	1人	1人	1人	0人	0人	1人
		辞退者数	7人	6人	3人	3人	2人	4人
	入学者数		111人	113人	117人	115人	113人	114人

３．入学定員充足率

	H30年度入試	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	平　均
入学定員	110人	110人	110人	110人	110人	110
入学定員充足率	1.01	1.03	1.06	1.05	1.03	1.03
歩留率	0.94	0.95	0.98	0.97	0.98	0.96

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２

大学学部学科等名：教育文化学部 地域文化学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数				5人	8人	10人	5人
	延べ人数	志願者数			16人	9人	26人	10人
		受験者数			16人	9人	26人	10人
		合格者数			5人	5人	11人	4人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数					1人	0人
	実人数	志願者数			16人	9人	26人	10人
		受験者数			16人	9人	26人	10人
		合格者数			5人	5人	11人	4人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数					1人	0人
	入学者数				5人	5人	10人	4人
学校推薦型選抜	募集人数		25人	25人	20人	22人	22人	23人
	延べ人数	志願者数	51人	56人	53人	44人	52人	51人
		受験者数	51人	56人	53人	44人	52人	51人
		合格者数	24人	26人	21人	25人	23人	24人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数						0人
	実人数	志願者数	51人	56人	53人	44人	52人	51人
		受験者数	51人	56人	53人	44人	52人	51人
		合格者数	24人	26人	21人	25人	23人	24人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数						0人
	入学者数		24人	26人	21人	25人	23人	24人
一般選抜	募集人数		75人	75人	75人	70人	68人	73人
	延べ人数	志願者数	408人	346人	235人	434人	244人	333人
		受験者数	300人	236人	122人	295人	155人	222人
		合格者数	84人	81人	82人	76人	72人	79人
		うち追加合格者数		2人				0人
		辞退者数	5人	7人	8人	4人	2人	5人
	実人数	志願者数	408人	346人	235人	434人	244人	333人
		受験者数	300人	236人	122人	295人	155人	222人
		合格者数	84人	81人	82人	76人	72人	79人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数	5人	7人	8人	4人	2人	5人
	入学者数		79人	74人	74人	72人	70人	74人
その他の特別選抜	募集人数							0人
	延べ人数	志願者数						0人
		受験者数						0人
		合格者数						0人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数						0人
	実人数	志願者数						0人
		受験者数						0人
		合格者数						0人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数						0人
	入学者数							0人
合計	募集人数		100人	100人	100人	100人	100人	100人
	延べ人数	志願者数	459人	402人	304人	487人	322人	395人
		受験者数	351人	292人	191人	348人	233人	283人
		合格者数	108人	107人	108人	106人	106人	107人
		うち追加合格者数	0人	2人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	5人	7人	8人	4人	3人	5人
	実人数	志願者数	459人	402人	304人	487人	322人	395人
		受験者数	351人	292人	191人	348人	233人	283人
		合格者数	108人	107人	108人	106人	106人	107人
		うち追加合格者数	0人	2人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	5人	7人	8人	4人	3人	5人
	入学者数		103人	100人	100人	102人	103人	102人

３．入学定員充足率

	H30年度入試	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	平　均
入学定員	100人	100人	100人	100人	100人	100
入学定員充足率	1.03	1.00	1.00	1.02	1.03	1.02
歩留率	0.95	0.93	0.93	0.96	0.97	0.95

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間） 別紙２

大学学部学科等名：医学部 医学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数							0人
	延べ人数	志願者数						0人
		受験者数						0人
		合格者数						0人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数						0人
	実人数	志願者数						0人
		受験者数						0人
		合格者数						0人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数						0人
	入学者数							0人
学校推薦型選抜	募集人数		44人	49人	45人	45人	45人	46人
	延べ人数	志願者数	133人	134人	116人	118人	137人	128人
		受験者数	129人	133人	116人	117人	136人	126人
		合格者数	44人	49人	45人	45人	45人	46人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数						0人
	実人数	志願者数	133人	134人	116人	118人	137人	128人
		受験者数	129人	133人	116人	117人	136人	126人
		合格者数	44人	49人	45人	45人	45人	46人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数						0人
	入学者数		44人	49人	45人	45人	45人	46人
一般選抜	募集人数		80人	75人	79人	79人	79人	78人
	延べ人数	志願者数	619人	702人	594人	610人	734人	652人
		受験者数	249人	305人	264人	237人	261人	263人
		合格者数	84人	81人	84人	81人	82人	82人
		うち追加合格者数	2人	4人	3人	2人	2人	3人
		辞退者数	4人	6人	5人	2人	3人	4人
	実人数	志願者数	619人	702人	594人	610人	734人	652人
		受験者数	249人	305人	264人	237人	261人	263人
		合格者数	84人	81人	84人	81人	82人	82人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数	4人	6人	5人	2人	3人	4人
	入学者数		80人	75人	79人	79人	79人	78人
その他の特別選抜	募集人数							0人
	延べ人数	志願者数						0人
		受験者数						0人
		合格者数						0人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数						0人
	実人数	志願者数						0人
		受験者数						0人
		合格者数						0人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数						0人
	入学者数							0人
合計	募集人数		124人	124人	124人	124人	124人	124人
	延べ人数	志願者数	752人	836人	710人	728人	871人	779人
		受験者数	378人	438人	380人	354人	397人	389人
		合格者数	128人	130人	129人	126人	127人	128人
		うち追加合格者数	2人	4人	3人	2人	2人	3人
		辞退者数	4人	6人	5人	2人	3人	4人
	実人数	志願者数	752人	836人	710人	728人	871人	779人
		受験者数	378人	438人	380人	354人	397人	389人
		合格者数	128人	130人	129人	126人	127人	128人
		うち追加合格者数	2人	4人	3人	2人	2人	3人
		辞退者数	4人	6人	5人	2人	3人	4人
	入学者数		124人	124人	124人	124人	124人	124人

３．入学定員充足率

	H30年度入試	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	平　均
入学定員	124人	124人	124人	124人	124人	124
入学定員充足率	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
歩留率	0.97	0.95	0.96	0.98	0.98	0.97

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２

大学学部学科等名：保健学科 保健学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数				42人	42人	52人	27人
	延べ人数	志願者数			99人	93人	98人	58人
		受験者数			99人	93人	96人	58人
		合格者数			40人	43人	49人	26人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数						0人
	実人数	志願者数			99人	93人	98人	58人
		受験者数			99人	93人	96人	58人
		合格者数			40人	43人	49人	26人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数						0人
	入学者数				40人	43人	49人	26人
学校推薦型選抜	募集人数		31人	33人				13人
	延べ人数	志願者数	90人	92人				36人
		受験者数	90人	92人				36人
		合格者数	33人	31人				13人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数						0人
	実人数	志願者数	90人	92人				36人
		受験者数	90人	92人				36人
		合格者数	33人	31人				13人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数						0人
	入学者数		33人	31人				13人
一般選抜	募集人数		75人	73人	64人	64人	54人	66人
	延べ人数	志願者数	379人	341人	161人	216人	224人	264人
		受験者数	214人	185人	127人	166人	96人	158人
		合格者数	82人	83人	76人	73人	65人	76人
		うち追加合格者数	1人		5人	2人	4人	2人
		辞退者数	7人	7人	9人	7人	6人	7人
	実人数	志願者数	379人	341人	161人	216人	224人	264人
		受験者数	214人	185人	127人	166人	96人	158人
		合格者数	82人	83人	76人	73人	65人	76人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数	7人	7人	9人	7人	6人	7人
	入学者数		75人	76人	67人	66人	59人	69人
その他の特別選抜	募集人数							0人
	延べ人数	志願者数						0人
		受験者数						0人
		合格者数						0人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数						0人
	実人数	志願者数						0人
		受験者数						0人
		合格者数						0人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数						0人
	入学者数							0人
合計	募集人数		106人	106人	106人	106人	106人	106人
	延べ人数	志願者数	469人	433人	260人	309人	322人	359人
		受験者数	304人	277人	226人	259人	192人	252人
		合格者数	115人	114人	116人	116人	114人	115人
		うち追加合格者数	1人	0人	5人	2人	4人	2人
		辞退者数	7人	7人	9人	7人	6人	7人
	実人数	志願者数	469人	433人	260人	309人	322人	359人
		受験者数	304人	277人	226人	259人	192人	252人
		合格者数	115人	114人	116人	116人	114人	115人
		うち追加合格者数	1人	0人	5人	2人	4人	2人
		辞退者数	7人	7人	9人	7人	6人	7人
	入学者数		108人	107人	107人	109人	108人	108人

３．入学定員充足率

	H30年度入試	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	平　均
入学定員	106人	106人	106人	106人	106人	106
入学定員充足率	1.02	1.01	1.01	1.03	1.02	1.02
歩留率	0.94	0.94	0.92	0.94	0.95	0.94

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間） 別紙２

大学学部学科等名：理工学部 生命科学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		10人	10人	14人	14人	14人	12人
	延べ人数	志願者数	26人	34人	25人	33人	26人	29人
		受験者数	26人	33人	25人	32人	26人	28人
		合格者数	11人	10人	12人	14人	14人	12人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数						0人
	実人数	志願者数	26人	34人	25人	33人	26人	29人
		受験者数	26人	33人	25人	32人	26人	28人
		合格者数	11人	10人	12人	14人	14人	12人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数						0人
	入学者数		11人	10人	12人	14人	14人	12人
学校推薦型選抜	募集人数		4人	4人				2人
	延べ人数	志願者数	5人	15人				4人
		受験者数	5人	15人				4人
		合格者数	5人	4人				2人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数						0人
	実人数	志願者数	5人	15人				4人
		受験者数	5人	15人				4人
		合格者数	5人	4人				2人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数						0人
	入学者数		5人	4人				2人
一般選抜	募集人数		30人	29人	29人	29人	29人	29人
	延べ人数	志願者数	246人	190人	173人	134人	149人	178人
		受験者数	157人	123人	117人	87人	93人	115人
		合格者数	39人	40人	38人	46人	38人	40人
		うち追加合格者数		1人		1人		0人
		辞退者数	5人	10人	5人	14人	6人	8人
	実人数	志願者数	246人	190人	173人	134人	149人	178人
		受験者数	157人	123人	117人	87人	93人	115人
		合格者数	39人	40人	38人	46人	38人	40人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数	5人	10人	5人	14人	6人	8人
	入学者数		34人	30人	33人	32人	32人	32人
その他の特別選抜	募集人数		1人	2人	2人	2人	2人	2人
	延べ人数	志願者数	18人	14人	7人	10人	7人	11人
		受験者数	17人	11人	7人	10人	6人	10人
		合格者数	2人	2人	1人	2人	2人	2人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数	1人	1人		2人	1人	1人
	実人数	志願者数	18人	14人	7人	10人	7人	11人
		受験者数	17人	11人	7人	10人	6人	10人
		合格者数	2人	2人	1人	2人	2人	2人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数	1人	1人		2人	1人	1人
	入学者数		1人	1人	1人		1人	1人
合計	募集人数		45人	45人	45人	45人	45人	45人
	延べ人数	志願者数	295人	253人	205人	177人	182人	222人
		受験者数	205人	182人	149人	129人	125人	158人
		合格者数	57人	56人	51人	62人	54人	56人
		うち追加合格者数	0人	1人	0人	1人	0人	0人
		辞退者数	6人	11人	5人	16人	7人	9人
	実人数	志願者数	295人	253人	205人	177人	182人	222人
		受験者数	205人	182人	149人	129人	125人	158人
		合格者数	57人	56人	51人	62人	54人	56人
		うち追加合格者数	0人	1人	0人	1人	0人	0人
		辞退者数	6人	11人	5人	16人	7人	9人
	入学者数		51人	45人	46人	46人	47人	47人

３．入学定員充足率

	H30年度入試	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	平　均
入学定員	45人	45人	45人	45人	45人	45
入学定員充足率	1.13	1.00	1.02	1.02	1.04	1.04
歩留率	0.89	0.80	0.90	0.74	0.87	0.84

※令和２年度以前のAO入試は総合型入試として集計した。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２

大学学部学科等名：理工学部 物質科学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		20人	20人	27人	27人	27人	24人
	延べ人数	志願者数	23人	26人	29人	28人	36人	28人
		受験者数	23人	24人	29人	28人	36人	28人
		合格者数	19人	20人	24人	23人	30人	23人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数						0人
	実人数	志願者数	23人	26人	29人	28人	36人	28人
		受験者数	23人	24人	29人	28人	36人	28人
		合格者数	19人	20人	24人	23人	30人	23人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数						0人
	入学者数		19人	20人	24人	23人	30人	23人
学校推薦型選抜	募集人数		8人	8人				3人
	延べ人数	志願者数	10人	7人				3人
		受験者数	10人	6人				3人
		合格者数	8人	5人				3人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数						0人
	実人数	志願者数	10人	7人				3人
		受験者数	10人	6人				3人
		合格者数	8人	5人				3人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数						0人
	入学者数		8人	5人				3人
一般選抜	募集人数		79人	77人	77人	77人	77人	77人
	延べ人数	志願者数	321人	363人	335人	247人	231人	299人
		受験者数	234人	236人	231人	153人	148人	200人
		合格者数	96人	95人	106人	98人	97人	98人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数	14人	12人	26人	15人	16人	17人
	実人数	志願者数	321人	363人	335人	247人	231人	299人
		受験者数	234人	236人	231人	153人	148人	200人
		合格者数	96人	95人	106人	98人	97人	98人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数	14人	12人	26人	15人	16人	17人
	入学者数		82人	83人	80人	83人	81人	82人
その他の特別選抜	募集人数		3人	5人	6人	6人	6人	5人
	延べ人数	志願者数	19人	24人	20人	10人	27人	20人
		受験者数	15人	21人	18人	9人	19人	16人
		合格者数	9人	10人	13人	7人	10人	10人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数	5人	7人	7人	1人	6人	5人
	実人数	志願者数	19人	24人	20人	10人	27人	20人
		受験者数	15人	21人	18人	9人	19人	16人
		合格者数	9人	10人	13人	7人	10人	10人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数	5人	7人	7人	1人	6人	5人
	入学者数		4人	3人	6人	6人	4人	5人
合計	募集人数		110人	110人	110人	110人	110人	110人
	延べ人数	志願者数	373人	420人	384人	285人	294人	351人
		受験者数	282人	287人	278人	190人	203人	248人
		合格者数	132人	130人	143人	128人	137人	134人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	19人	19人	33人	16人	22人	22人
	実人数	志願者数	373人	420人	384人	285人	294人	351人
		受験者数	282人	287人	278人	190人	203人	248人
		合格者数	132人	130人	143人	128人	137人	134人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	19人	19人	33人	16人	22人	22人
	入学者数		113人	111人	110人	112人	115人	112人

３．入学定員充足率

	H30年度入試	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	平　均
入学定員	110人	110人	110人	110人	110人	110
入学定員充足率	1.03	1.01	1.00	1.02	1.05	1.02
歩留率	0.86	0.85	0.77	0.88	0.84	0.84

※令和２年度以前のAO入試は総合型入試として集計した。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間） 別紙２

大学学部学科等名：理工学部 数理・電気電子情報学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		25人	26人	37人	37人	37人	32人
	延べ人数	志願者数	69人	90人	77人	71人	79人	77人
		受験者数	69人	83人	76人	70人	79人	75人
		合格者数	28人	30人	44人	45人	45人	38人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数						0人
	実人数	志願者数	69人	90人	77人	71人	79人	77人
		受験者数	69人	83人	76人	70人	79人	75人
		合格者数	28人	30人	44人	45人	45人	38人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数						0人
	入学者数		28人	30人	44人	45人	45人	38人
学校推薦型選抜	募集人数		12人	12人				5人
	延べ人数	志願者数	16人	31人				9人
		受験者数	16人	31人				9人
		合格者数	11人	13人				5人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数						0人
	実人数	志願者数	16人	31人				9人
		受験者数	16人	31人				9人
		合格者数	11人	13人				5人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数						0人
	入学者数		11人	13人				5人
一般選抜	募集人数		78人	76人	76人	76人	76人	76人
	延べ人数	志願者数	512人	447人	501人	401人	419人	456人
		受験者数	355人	312人	347人	248人	197人	292人
		合格者数	90人	86人	86人	86人	84人	86人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数	13人	9人	11人	15人	10人	12人
	実人数	志願者数	512人	447人	501人	401人	419人	456人
		受験者数	355人	312人	347人	248人	197人	292人
		合格者数	90人	86人	86人	86人	84人	86人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数	13人	9人	11人	15人	10人	12人
	入学者数		77人	77人	75人	71人	74人	75人
その他の特別選抜	募集人数		5人	6人	7人	7人	7人	6人
	延べ人数	志願者数	38人	35人	28人	24人	28人	31人
		受験者数	29人	28人	20人	20人	24人	24人
		合格者数	11人	10人	7人	11人	10人	10人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数	2人	4人	2人	5人	5人	4人
	実人数	志願者数	38人	35人	28人	24人	28人	31人
		受験者数	29人	28人	20人	20人	24人	24人
		合格者数	11人	10人	7人	11人	10人	10人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数	2人	4人	2人	5人	5人	4人
	入学者数		9人	6人	5人	6人	5人	6人
合計	募集人数		120人	120人	120人	120人	120人	120人
	延べ人数	志願者数	635人	603人	606人	496人	526人	573人
		受験者数	469人	454人	443人	338人	300人	401人
		合格者数	140人	139人	137人	142人	139人	139人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	15人	13人	13人	20人	15人	15人
	実人数	志願者数	635人	603人	606人	496人	526人	573人
		受験者数	469人	454人	443人	338人	300人	401人
		合格者数	140人	139人	137人	142人	139人	139人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	15人	13人	13人	20人	15人	15人
	入学者数		125人	126人	124人	122人	124人	124人

３．入学定員充足率

	H30年度入試	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	平　均
入学定員	120人	120人	120人	120人	120人	120
入学定員充足率	1.04	1.05	1.03	1.02	1.03	1.04
歩留率	0.89	0.91	0.91	0.86	0.89	0.89

※令和２年度以前のAO入試は総合型入試として集計した。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２

大学学部学科等名：理工学部 システムデザイン工学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		22人	21人	36人	36人	36人	30人
	延べ人数	志願者数	60人	62人	66人	67人	48人	61人
		受験者数	60人	55人	66人	67人	48人	59人
		合格者数	25人	22人	41人	40人	34人	32人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数						0人
	実人数	志願者数	60人	62人	66人	67人	48人	61人
		受験者数	60人	55人	66人	67人	48人	59人
		合格者数	25人	22人	41人	40人	34人	32人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数						0人
	入学者数		25人	22人	41人	40人	34人	32人
学校推薦型選抜	募集人数		15人	15人				6人
	延べ人数	志願者数	24人	23人				9人
		受験者数	24人	23人				9人
		合格者数	14人	11人				5人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数						0人
	実人数	志願者数	24人	23人				9人
		受験者数	24人	23人				9人
		合格者数	14人	11人				5人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数						0人
	入学者数		14人	11人				5人
一般選抜	募集人数		78人	78人	78人	78人	78人	78人
	延べ人数	志願者数	389人	389人	358人	293人	519人	390人
		受験者数	278人	256人	244人	180人	313人	254人
		合格者数	89人	97人	84人	94人	98人	92人
		うち追加合格者数					4人	1人
		辞退者数	13人	12人	9人	12人	19人	13人
	実人数	志願者数	389人	389人	358人	293人	519人	390人
		受験者数	278人	256人	244人	180人	313人	254人
		合格者数	89人	97人	84人	94人	98人	92人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数	13人	12人	9人	12人	19人	13人
	入学者数		76人	85人	75人	82人	79人	79人
その他の特別選抜	募集人数		5人	6人	6人	6人	6人	6人
	延べ人数	志願者数	36人	34人	20人	20人	23人	27人
		受験者数	30人	29人	18人	17人	19人	23人
		合格者数	12人	9人	10人	9人	11人	10人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数	4人	4人	2人	6人	4人	4人
	実人数	志願者数	36人	34人	20人	20人	23人	27人
		受験者数	30人	29人	18人	17人	19人	23人
		合格者数	12人	9人	10人	9人	11人	10人
		うち追加合格者数						0人
		辞退者数	4人	4人	2人	6人	4人	4人
	入学者数		8人	5人	8人	3人	7人	6人
合計	募集人数		120人	120人	120人	120人	120人	120人
	延べ人数	志願者数	509人	508人	444人	380人	590人	486人
		受験者数	392人	363人	328人	264人	380人	345人
		合格者数	140人	139人	135人	143人	143人	140人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	4人	1人
		辞退者数	17人	16人	11人	18人	23人	17人
	実人数	志願者数	509人	508人	444人	380人	590人	486人
		受験者数	392人	363人	328人	264人	380人	345人
		合格者数	140人	139人	135人	143人	143人	140人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	4人	1人
		辞退者数	17人	16人	11人	18人	23人	17人
	入学者数		123人	123人	124人	125人	120人	123人

３．入学定員充足率

	H30年度入試	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	平　均
入学定員	120人	120人	120人	120人	120人	120
入学定員充足率	1.03	1.03	1.03	1.04	1.00	1.03
歩留率	0.88	0.88	0.92	0.87	0.84	0.88

※令和２年度以前のAO入試は総合型入試として集計した。

理工学部　一般選抜(前期日程・後期日程)志願状況（2019～2023年度）

学科名	2019年度						2020年度						2021年度						2022年度						2023年度						5年間平均	
	前期日程			後期日程			前期日程			後期日程			前期日程			後期日程			前期日程			後期日程			前期日程			後期日程			前期	後期
	募集人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者数	志願倍率	志願倍率	志願倍率
生命科学科	20	132	6.6	10	114	11.4	23	115	5.0	6	75	12.5	23	106	4.6	6	67	11.2	23	80	3.5	6	54	9.0	23	80	3.5	6	69	11.5	4.6	11.1
物質科学科	65	219	3.4	14	102	7.3	63	219	3.5	14	144	10.3	63	214	3.4	14	121	8.6	63	145	2.3	14	102	7.3	63	146	2.3	14	85	6.1	3.0	7.9
数理・電気電子情報学科	60	301	5.0	18	211	11.7	58	280	4.8	18	167	9.3	58	320	5.5	18	181	10.1	58	217	3.7	18	184	10.2	58	143	2.5	18	276	15.3	4.3	11.3
システムデザイン工学科	61	260	4.3	17	129	7.6	61	202	3.3	17	187	11.0	61	249	4.1	17	109	6.4	61	157	2.6	17	136	8.0	61	282	4.6	17	237	13.9	3.8	9.4
計	206	912	4.4	59	556	9.4	205	816	4.0	55	573	10.4	205	889	4.3	55	478	8.7	205	599	2.9	55	476	8.7	205	651	3.2	55	667	12.1	3.8	9.9

資料７

秋田大学
「情報データ科学部」「総合環境理工学部」
（いずれも仮称）設置・改組に関するニーズ調査
結果報告書
【高校生対象調査】

令和６年２月

株式会社　進研アド

© Shinken-Ad. Co., Ltd. All Rights Reserved.

高校生対象

調査概要

1. 調査目的

2025年4月予定の秋田大学「情報データ科学部」「総合環境理工学部」（いずれも仮称）の設置・改組構想に関して、高校生からの進学ニーズを把握する。

2. 調査概要

		高校生対象調査
調査対象		高校2年生
調査エリア		北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、東京都、新潟県、静岡県
調査方法		高校留め置き調査
調査対象数	依頼数（依頼校数）	12,030名（85校）
	有効回収数（回収校数）	7,626名（72校） 有効回収率：63.4%
調査時期		2023年11月2日（木）～2023年12月11日（月）
調査実施機関		株式会社　進研アド

3. 調査項目

高校生対象調査
・性別 ・学年 ・高校種別 ・高校所在地 ・所属クラス ・高校卒業後の希望進路 ・志望する設置者 ・興味のある学問分野 ・秋田大学「情報データ科学部」「総合環境理工学部」の特色に対する魅力度 ・秋田大学「情報データ科学部」「総合環境理工学部」への受験意向 ・秋田大学「情報データ科学部」「総合環境理工学部」への入学意向

入学意向調査　調査結果

※報告書内の表中の％の母数は、
特に断りがない場合、回答者全体（7,626名）

高校生対象

回答者の属性

回答者の属性

※本調査は、秋田大学の「情報データ科学部」「総合環境理工学部」（いずれも仮称）に対する需要を確認するための調査として設計。秋田大学の主な学生募集エリアである北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、東京都、新潟県、静岡県に所在する高校の高校2年生に調査を実施し7,626名から回答を得た。

- 回答者の性別は「男性」が55.1%、「女性」が42.5%である。
- 回答者の学年は「2年生」が100.0%である。
- 回答者の高校種別は「公立」が92.6%、「私立」が7.4%である。
- 回答者の在籍高校所在地は、秋田大学の所在地である「秋田県」が34.8%を占め、最も多い。次に「岩手県」が11.9%、「青森県」が8.8%と続く。
- 回答者の所属クラスは「理系クラス（理系コース）」が75.0%で最も多い。次に「文系クラス（文系コース）」が18.7%と続く。

■性別

上段：% 下段：件数（名）	標本数	男性	女性	回答しない	無回答
全体	7,626	55.1 4,204	42.5 3,241	1.7 128	0.7 53

■学年

上段：% 下段：件数（名）	標本数	1年生	2年生	3年生	無回答
全体	7,626	0.0 0	100.0 7,626	0.0 0	0.0 0

高校生対象

回答者の属性

■高校種別

上段:% 下段:件数(名)	標本数	国立	公立	私立	無回答
全体	7,626	0.0 0	92.6 7,061	7.4 565	0.0 0

■高校所在地

上段:% 下段:件数(名)	標本数	北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県
全体	7,626	2.5 192	8.8 671	11.9 905	3.6 276	34.8 2,655	6.6 500	1.6 123	1.1 83

上段:% 下段:件数(名)	標本数	栃木県	群馬県	埼玉県	東京都	新潟県	静岡県	無回答
全体	7,626	5.8 446	5.5 423	4.0 303	2.4 181	5.5 416	5.9 452	0.0 0

■所属クラス

上段:% 下段:件数(名)	標本数	文系クラス（文系コース）	理系クラス（理系コース）	コース選択はない	その他	無回答
全体	7,626	18.7 1,424	75.0 5,716	2.7 205	1.3 97	2.4 184

高校生対象

高校卒業後の希望進路

高校卒業後の希望進路

- 回答者のうち、今後「大学」に進学することを検討・希望している人は92.5%。
  次いで、「専門学校」に進学が7.4%、「就職」が3.3%と続く。「短期大学」に進学は3.2%、「専門職大学」に進学は2.2%、「専門職短期大学」に進学は0.5%である。
- 高校卒業後の希望進路として「大学」「短期大学」「専門職大学」「専門職短期大学」のいずれかを選択した人に、設置者ごとの進学希望を複数回答で聴取した。その結果、秋田大学の該当する「国立」への進学を希望する人は81.7%、「公立」が43.9%、「私立」が25.2%であった。

■高校卒業後の進路

Q1. あなたは、卒業後の進路をどのように考えていますか。
現在検討している進路すべてに○をつけてください。(複数選択可)

上段:% 下段:件数(名)	標本数	大学	短期大学	専門職大学	専門職短期大学	専門学校	就職	その他	無回答
全体	7,626	92.5 7,054	3.2 245	2.2 170	0.5 40	7.4 564	3.3 253	0.6 44	0.2 16

※「大学」「短期大学」「専門職大学」「専門職短期大学」のいずれかを選択した7,177名を抽出

■希望する大学等の区分(設置者)

Q2. **Q1で①～④を選択した方**に質問です。(※Q1で①～④を選択しなかった方は、Q3に進んでください。)
志望する大学等の設置者の希望を選択してください。
現在検討している(希望している)設置者すべてに○をつけてください。(複数選択可)

上段:% 下段:件数(名)	標本数	国立	公立	私立	無回答
全体	7,177	81.7 5,863	43.9 3,148	25.2 1,808	0.2 14
大学希望者	7,054	82.9 5,848	44.0 3,103	24.3 1,717	0.2 13

※大学希望者:Q1で卒業後の進路として「大学」を希望

興味のある学問分野

興味のある学問分野

- 回答者の興味のある学問分野を複数回答で聴取したところ、「保健（医学，薬学，看護学など）」が30.2%で最も高い。各学科の学びと関連する学問分野は以下の通り。

情報学，データサイエンス：18.1% （「情報データ科学科」関連学科）

化学：10.2% （「応用化学生物学科」関連学科）

生物学（生命科学など）：10.9% （「応用化学生物学科」関連学科）

数学，物理学，地学 ：12.7% （「環境数物科学科」関連学科）

電子制御・ロボット工学：9.6% （「情報データ科学科」関連学科）

電気通信工学（電力，モータ，電気電子機器，電子材料工学など）：11.7%
（「環境数物科学科」「社会システム工学科」関連学科）

機械工学，土木建築工学，金属工学：15.8% （「社会システム工学科」関連学科）

応用化学（先端材料（理）工学など）：6.4%
（「応用化学生物学科」「環境数物科学科」関連学科）

環境学：6.8%
（「応用化学生物学科」「環境数物科学科」「社会システム工学科」関連学科）

防災システム学：1.5% （「情報データ科学科」「社会システム工学科」関連学科）

高校生対象

興味のある学問分野

- 回答者のうち、国立大学進学希望者に限定すると、興味のある学問分野は「保健（医学，薬学，看護学など）」が29.0％で最も高い。各学科の学びと関連する学問分野は以下の通り。

情報学，データサイエンス：20.6％ （「情報データ科学科」関連学科）

化学：12.2％ （「応用化学生物学科」関連学科）

生物学（生命科学など）：11.9％ （「応用化学生物学科」関連学科）

数学，物理学，地学 ：15.5％ （「環境数物科学科」関連学科）

電子制御・ロボット工学：11.5％ （「情報データ科学科」関連学科）

電気通信工学（電力，モータ，電気電子機器，電子材料工学など）：13.7％
（「環境数物科学科」「社会システム工学科」関連学科）

機械工学，土木建築工学，金属工学：18.2％ （「社会システム工学科」関連学科）

応用化学（先端材料（理）工学など）：7.8％
（「応用化学生物学科」「環境数物科学科」関連学科）

環境学：7.8％
（「応用化学生物学科」「環境数物科学科」「社会システム工学科」関連学科）

防災システム学：1.6％ （「情報データ科学科」「社会システム工学科」関連学科）

＜国立大学進学希望者＞
① Q1で卒業後の進路として「大学」を希望。
② Q2で「国立」への進学を希望。

高校生対象

興味のある学問分野

■興味のある学問分野

Q3. ここからは**全員**にお聞きします。
高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。
以下の項目から、興味のある学問分野すべてに○をつけてください。(複数選択可)
※現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。

上段:% 下段:件数(名)	標本数	情報学,データサイエンス	化学	生物学(生命科学など)	数学,物理学,地学	電子制御・ロボット工学	電気通信工学(電力,モータ,電気電子機器,電子材料工学など)	機械工学,土木建築工学,金属工学	応用化学(先端材料(理)工学など)	環境学
全体	7,626	18.1 1,379	10.2 776	10.9 835	12.7 967	9.6 735	11.7 893	15.8 1,204	6.4 485	6.8 516

上段:% 下段:件数(名)	標本数	防災システム学	人文科学(文学,史学など)	社会科学(法学,経済学など)	農学(林学,水産学など)	保健(医学,薬学,看護学など)	その他	わからない	無回答
全体	7,626	1.5 113	10.4 790	13.3 1,015	9.0 684	30.2 2,303	16.5 1,258	3.5 270	0.3 22

＜国立大学進学希望者ベース＞

上段:% 下段:件数(名)	標本数	情報学,データサイエンス	化学	生物学(生命科学など)	数学,物理学,地学	電子制御・ロボット工学	電気通信工学(電力,モータ,電気電子機器,電子材料工学など)	機械工学,土木建築工学,金属工学	応用化学(先端材料(理)工学など)	環境学
国立大学進学希望者	5,848	20.6 1,202	12.2 715	11.9 693	15.5 904	11.5 673	13.7 801	18.2 1,064	7.8 458	7.8 454

上段:% 下段:件数(名)	標本数	防災システム学	人文科学(文学,史学など)	社会科学(法学,経済学など)	農学(林学,水産学など)	保健(医学,薬学,看護学など)	その他	わからない	無回答
国立大学進学希望者	5,848	1.6 93	10.5 613	13.6 798	10.2 599	29.0 1,693	13.4 782	2.4 143	0.2 10

※%の母数は、国立大学進学希望者(5,848名)

高校生対象

秋田大学「情報データ科学部　情報データ科学科」への受験・入学意向

※ここからは、下記の①～③の条件すべてに合致する回答者を、
秋田大学「情報データ科学部　情報データ科学科」のターゲット層と定義し、分析を行う。

① Q1で卒業後の進路として「大学」を希望。
② Q2で「国立」への進学を希望。
③ Q3で、「情報データ科学部　情報データ科学科」の学びと関連する学問分野への興味あり
（情報学，データサイエンス、電子制御・ロボット工学、防災システム学のいずれかに興味あり）

秋田大学「情報データ科学部　情報データ科学科」への受験・入学意向

- 上記の①～③の条件すべてに合致する回答者（情報データ科学部　情報データ科学科のターゲット層該当者）は、1,527名である。

- ターゲット層該当者の、「情報データ科学部　情報データ科学科」への受験意向、入学意向をみると、

  ◇「第一志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人は88名

  ◇「第二志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人は8名

  ◇「第三志望以降として受験する」かつ「入学する」と回答した人は8名

  上記を合計すると、いずれかの志望順位で「入学する」と回答した人は、104名。

高校生対象

秋田大学「情報データ科学部　情報データ科学科」への受験・入学意向

■秋田大学「情報データ科学部　情報データ科学科」への受験・入学意向

Q5. あなたは、秋田大学「情報データ科学部」（仮称、設置構想中）、「総合環境理工学部」の各学科（仮称）が新設・改組された場合、受験を希望しますか。それぞれの学科について、次より1つずつ選択してください。

Q6. **Q5で①～③（受験する）を選択した学科**についてお答えください。
あなたは、秋田大学「情報データ科学部」（仮称、設置構想中）、「総合環境理工学部」の各学科（仮称）を受験して合格した場合、入学を希望しますか。それぞれの学科について、次より1つずつ選択してください。

上段：% 下段：件数（名）		入学意向		
		入学する	志望順位が上位の他の学科・志望校が不合格の場合に入学する	入学しない
受験意向	第一志望	1.2 88	0.3 25	0.1 7
	第二志望	0.1 8	0.9 67	0.0 1
	第三志望以降	0.1 8	3.3 251	0.3 20
	受験意向あり・合計	1.4 104	4.5 343	0.4 28
受験しない		13.4 1,024		

※%の母数は、回答者全体（7,626名）

高校生対象

秋田大学「情報データ科学部　情報データ科学科」：特色に対する魅力度

秋田大学「情報データ科学部　情報データ科学科」特色に対する魅力度

【情報データ科学部　情報データ科学科　ターゲット層】
下記の①～③の条件すべてに合致する回答者: 1,527名（回答者全体の20.0%）

① Q1で卒業後の進路として「大学」を希望。
② Q2で「国立」への進学を希望。
③ Q3で、「情報データ科学部　情報データ科学科」の学びと関連する学問分野への興味あり
（情報学, データサイエンス、電子制御・ロボット工学、防災システム学のいずれかに興味あり）

- ターゲット層における「情報データ科学部」の特色に対する魅力度（※）をみると、最も高いのは「A. 情報データ科学部では、入学後に様々な科目を学びながら、ITエンジニア、あるいは、データサイエンティスト等をめざすのかの将来の進路を選択することができます。」（92.1%）。次に高いのは「B. 1年次から、情報学やデータサイエンスを体系的に学び、情報技術の活用やデータ解析スキルを身に付けます。」（91.7%）である。

- ターゲット層該当者のうち、「第一志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人（第一志望者）における「情報データ科学部」の特色に対する魅力度（※）をみると、最も高いのは「A. 情報データ科学部では、入学後に様々な科目を学びながら、ITエンジニア、あるいは、データサイエンティスト等をめざすのかの将来の進路を選択することができます。」「B. 1年次から、情報学やデータサイエンスを体系的に学び、情報技術の活用やデータ解析スキルを身に付けます。」（いずれも98.9%）である。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

秋田大学「情報データ科学部　情報データ科学科」:特色に対する魅力度

■秋田大学「情報データ科学部　情報データ科学科」:特色に対する魅力度

Q4. 秋田大学「情報データ科学部」(仮称)は、情報技術の知識とデータ解析スキルを活用して社会課題を解決し、新たな価値を創造できるデジタル人材育成をめざしています。また、「総合環境理工学部」(仮称)は、環境問題に関連した科学技術に関する教育を強化し、理工学に関する確かな専門性を身に付け、分野横断的な幅広い視野を持ち、他者と協調して課題を解決できる人材の育成をめざしています。それぞれの学部の以下のような特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

【情報データ科学部】

特色A. 情報データ科学部では、入学後に様々な科目を学びながら、ITエンジニア、あるいは、データサイエンティスト等をめざすのかの将来の進路を選択することができます。

特色B. 1年次から、情報学やデータサイエンスを体系的に学び、情報技術の活用やデータ解析スキルを身に付けます。

特色C. 3年次からは、情報学やデータサイエンスを活用し社会課題を解決するための人間情報系、知能ロボティクス系、防災・エネルギー情報系の応用分野を志向に合わせて選択し、専門性を身に付けます。

特色D. アントレプレナーシップ(急激な社会環境の変化を受容し、新たな価値を生み出す精神)を育むため、課題解決型授業を通じて実践力を磨きます。

上段:% 下段:件数(名)	標本数	特色A	特色B	特色C	特色D
ターゲット層	1,527	92.1 1,407	91.7 1,401	85.1 1,299	77.2 1,179
第一志望者	88	98.9 87	98.9 87	90.9 80	92.0 81

※第一志望者:
ターゲット層(大学進学希望×国立×関連学問分野興味あり)該当者のうち、
秋田大学「情報データ科学部　情報データ科学科」を「第一志望として受験する」かつ
「入学する」と回答した人

高校生対象

秋田大学「総合環境理工学部　応用化学生物学科」への受験・入学意向

※ここからは、下記の①～③の条件すべてに合致する回答者を、
秋田大学「総合環境理工学部　応用化学生物学科」のターゲット層と定義し、分析を行う。

① Q1で卒業後の進路として「大学」を希望。
② Q2で「国立」への進学を希望。
③ Q3で、「情報データ科学部　応用化学生物学科」の学びと関連する学問分野への興味あり
（化学、生物学（生命科学など）、応用化学（先端材料（理）工学など）、環境学のいずれかに興味あり）

秋田大学「総合環境理工学部　応用化学生物学科」への受験・入学意向

- 上記の①～③の条件すべてに合致する回答者（総合環境理工学部　応用化学生物学科のターゲット層該当者）は、1,603名である。

- ターゲット層該当者の、「総合環境理工学部　応用化学生物学科」への受験意向、入学意向をみると、
  ◇「第一志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人は32名
  ◇「第二志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人は6名
  ◇「第三志望以降として受験する」かつ「入学する」と回答した人は11名
  上記を合計すると、いずれかの志望順位で「入学する」と回答した人は、49名。

高校生対象

秋田大学「総合環境理工学部　応用化学生物学科」への受験・入学意向

■秋田大学「総合環境理工学部　応用化学生物学科」への受験・入学意向

Q5. あなたは、秋田大学「情報データ科学部」（仮称、設置構想中）、「総合環境理工学部」の各学科（仮称）が新設・改組された場合、受験を希望しますか。それぞれの学科について、次より1つずつ選択してください。

Q6. **Q5で①～③（受験する）を選択した学科**についてお答えください。
あなたは、秋田大学「情報データ科学部」（仮称、設置構想中）、「総合環境理工学部」の各学科（仮称）を受験して合格した場合、入学を希望しますか。それぞれの学科について、次より1つずつ選択してください。

上段：% 下段：件数（名）		入学意向		
		入学する	志望順位が上位の他の学科・志望校が不合格の場合に入学する	入学しない
受験意向	第一志望	0.4 32	0.3 20	0.1 4
	第二志望	0.1 6	0.5 37	0.1 5
	第三志望以降	0.1 11	2.3 173	0.2 13
	受験意向あり・合計	0.6 49	3.1 230	0.4 22
受験しない		16.5 1,261		

※%の母数は、回答者全体（7,626名）

高校生対象

秋田大学「総合環境理工学部　応用化学生物学科」：特色に対する魅力度

秋田大学「総合環境理工学部　応用化学生物学科」特色に対する魅力度

【総合環境理工学部　応用化学生物学科　ターゲット層】
下記の①～③の条件すべてに合致する回答者: 1,603名（回答者全体の21.0%）

① Q1で卒業後の進路として「大学」を希望。
② Q2で「国立」への進学を希望。
③ Q3で、「総合環境理工学部　応用化学生物学科」の学びと関連する学問分野への興味あり
（化学、生物学（生命科学など）、応用化学（先端材料（理）工学など）、環境学のいずれかに興味あり）

- ターゲット層における「総合環境理工学部」の特色に対する魅力度（※）をみると、最も高いのは「H．専門性が異なる人と共創できる能力を育むため分野横断教育を強化し、他者と協調して総合的に課題を解決できる人材を養成します。」（80.0%）。次に高いのは「F．時代のニーズに合わせた専門分野の深掘りを行うと同時に、時代の変化に影響されない理工学の基礎的学問体系を教授し、応用力のある人材を養成します。」（79.7%）である。

- ターゲット層該当者のうち、「第一志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人（第一志望者）における「総合環境理工学部」の特色に対する魅力度（※）をみると、最も高いのは「G．「応用化学生物学科」「環境数物科学科」「社会システム工学科」の3学科体制とし、それぞれの学科に配置する専門教育プログラムにより、高い専門性を涵養します。」（96.9%）。次に高いのは「F．時代のニーズに合わせた専門分野の深掘りを行うと同時に、時代の変化に影響されない理工学の基礎的学問体系を教授し、応用力のある人材を養成します。」「H．専門性が異なる人と共創できる能力を育むため分野横断教育を強化し、他者と協調して総合的に課題を解決できる人材を養成します。」（いずれも93.8%）である。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

高校生対象

秋田大学「総合環境理工学部　応用化学生物学科」：特色に対する魅力度

■秋田大学「総合環境理工学部　応用化学生物学科」：特色に対する魅力度

Q4. 秋田大学「情報データ科学部」（仮称）は、情報技術の知識とデータ解析スキルを活用して社会課題を解決し、新たな価値を創造できるデジタル人材育成をめざしています。また、「総合環境理工学部」（仮称）は、環境問題に関連した科学技術に関する教育を強化し、理工学に関する確かな専門性を身に付け、分野横断的な幅広い視野を持ち、他者と協調して課題を解決できる人材の育成をめざしています。それぞれの学部の以下のような特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

【総合環境理工学部】

特色E. グリーン社会実現に向けた先端科学技術に関する知識、専門分野にデジタル技術を活用できる基礎知識・技術を教授します。

特色F. 時代のニーズに合わせた専門分野の深掘りを行うと同時に、時代の変化に影響されない理工学の基礎的学問体系を教授し、応用力のある人材を養成します。

特色G. 「応用化学生物学科」「環境数物科学科」「社会システム工学科」の3学科体制とし、それぞれの学科に配置する専門教育プログラムにより、高い専門性を涵養します。

特色H. 専門性が異なる人と共創できる能力を育むため分野横断教育を強化し、他者と協調して総合的に課題を解決できる人材を養成します。

上段：% 下段：件数（名）	標本数	特色E	特色F	特色G	特色H
ターゲット層	1,603	78.1 1,252	79.7 1,277	79.4 1,272	80.0 1,283
第一志望者	32	90.6 29	93.8 30	96.9 31	93.8 30

※第一志望者：
ターゲット層（大学進学希望×国立×関連学問分野興味あり）該当者のうち、
秋田大学「総合環境理工学部　応用化学生物学科」を「第一志望として受験する」かつ
「入学する」と回答した人

高校生対象

秋田大学「総合環境理工学部 環境数物科学科」への受験・入学意向

※ここからは、下記の①～③の条件すべてに合致する回答者を、
秋田大学「総合環境理工学部　環境数物科学科」のターゲット層と定義し、分析を行う。

① Q1で卒業後の進路として「大学」を希望。
② Q2で「国立」への進学を希望。
③ Q3で、「総合環境理工学部　環境数物科学科」の学びと関連する学問分野への興味あり
（数学，物理学，地学、電気通信工学（電力，モータ，電気電子機器，電子材料工学など）、応用化学（先端材料（理）工学など）、環境学のいずれかに興味あり）

秋田大学「総合環境理工学部　環境数物科学科」への受験・入学意向

- 上記の①～③の条件すべてに合致する回答者（総合環境理工学部　環境数物科学科のターゲット層該当者）は、2,032名である。

- ターゲット層該当者の、「総合環境理工学部　環境数物科学科」への受験意向、入学意向をみると、
  ◇「第一志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人は28名
  ◇「第二志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人は7名
  ◇「第三志望以降として受験する」かつ「入学する」と回答した人は5名
  上記を合計すると、いずれかの志望順位で「入学する」と回答した人は、40名。

高校生対象

秋田大学「総合環境理工学部 環境数物科学科」への受験・入学意向

■秋田大学「総合環境理工学部　環境数物科学科」への受験・入学意向

Q5. あなたは、秋田大学「情報データ科学部」（仮称、設置構想中）、「総合環境理工学部」の各学科（仮称）が新設・改組された場合、受験を希望しますか。それぞれの学科について、次より1つずつ選択してください。

Q6. **Q5で①～③（受験する）を選択した学科**についてお答えください。
あなたは、秋田大学「情報データ科学部」（仮称、設置構想中）、「総合環境理工学部」の各学科（仮称）を受験して合格した場合、入学を希望しますか。それぞれの学科について、次より1つずつ選択してください。

上段：% 下段：件数（名）		入学意向		
		入学する	志望順位が上位の他の学科・志望校が不合格の場合に入学する	入学しない
受験意向	第一志望	0.4 28	0.1 9	0.0 1
	第二志望	0.1 7	0.5 41	0.1 8
	第三志望以降	0.1 5	2.0 150	0.4 31
	受験意向あり・合計	0.6 40	2.6 200	0.5 40
受験しない		22.4 1,706		

※%の母数は、回答者全体（7,626名）

高校生対象

秋田大学「総合環境理工学部 環境数物科学科」：特色に対する魅力度

秋田大学「総合環境理工学部　環境数物科学科」 特色に対する魅力度

【総合環境理工学部　環境数物科学科　ターゲット層】
下記の①～③の条件すべてに合致する回答者: 2,032名（回答者全体の26.6%）

① Q1で卒業後の進路として「大学」を希望。
② Q2で「国立」への進学を希望。
③ Q3で、「総合環境理工学部　環境数物科学科」の学びと関連する学問分野への興味あり
（数学，物理学，地学、電気通信工学（電力，モータ，電気電子機器，電子材料工学など）、応用化学（先端材料（理）工学など）、環境学のいずれかに興味あり）

- ターゲット層における「総合環境理工学部」の特色に対する魅力度（※）をみると、最も高いのは「F．時代のニーズに合わせた専門分野の深掘りを行うと同時に、時代の変化に影響されない理工学の基礎的学問体系を教授し、応用力のある人材を養成します。」（82.1%）。次に高いのは「H．専門性が異なる人と共創できる能力を育むため分野横断教育を強化し、他者と協調して総合的に課題を解決できる人材を養成します。」（81.2%）である。

- ターゲット層該当者のうち、「第一志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人（第一志望者）における「総合環境理工学部」の特色に対する魅力度（※）をみると、最も高いのは「H．専門性が異なる人と共創できる能力を育むため分野横断教育を強化し、他者と協調して総合的に課題を解決できる人材を養成します。」（92.9%）。次に高いのは「F．時代のニーズに合わせた専門分野の深掘りを行うと同時に、時代の変化に影響されない理工学の基礎的学問体系を教授し、応用力のある人材を養成します。」「G．「応用化学生物学科」「環境数物科学科」「社会システム工学科」の3学科体制とし、それぞれの学科に配置する専門教育プログラムにより、高い専門性を涵養します。」（いずれも89.3%）である。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

秋田大学「総合環境理工学部 環境数物科学科」:特色に対する魅力度

■秋田大学「総合環境理工学部　環境数物科学科」:特色に対する魅力度

Q4. 秋田大学「情報データ科学部」(仮称)は、情報技術の知識とデータ解析スキルを活用して社会課題を解決し、新たな価値を創造できるデジタル人材育成をめざしています。また、「総合環境理工学部」(仮称)は、環境問題に関連した科学技術に関する教育を強化し、理工学に関する確かな専門性を身に付け、分野横断的な幅広い視野を持ち、他者と協調して課題を解決できる人材の育成をめざしています。それぞれの学部の以下のような特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

【総合環境理工学部】

特色E. グリーン社会実現に向けた先端科学技術に関する知識、専門分野にデジタル技術を活用できる基礎知識・技術を教授します。

特色F. 時代のニーズに合わせた専門分野の深掘りを行うと同時に、時代の変化に影響されない理工学の基礎的学問体系を教授し、応用力のある人材を養成します。

特色G. 「応用化学生物学科」「環境数物科学科」「社会システム工学科」の3学科体制とし、それぞれの学科に配置する専門教育プログラムにより、高い専門性を涵養します。

特色H. 専門性が異なる人と共創できる能力を育むため分野横断教育を強化し、他者と協調して総合的に課題を解決できる人材を養成します。

上段:% 下段:件数(名)	標本数	特色E	特色F	特色G	特色H
ターゲット層	2,032	79.2 1,610	82.1 1,669	78.2 1,589	81.2 1,650
第一志望者	28	85.7 24	89.3 25	89.3 25	92.9 26

※第一志望者:
ターゲット層(大学進学希望×国立×関連学問分野興味あり)該当者のうち、
秋田大学「総合環境理工学部　環境数物科学科」を「第一志望として受験する」かつ
「入学する」と回答した人

高校生対象

秋田大学「総合環境理工学部 社会システム工学科」への受験・入学意向

※ここからは、下記の①～③の条件すべてに合致する回答者を、
秋田大学「総合環境理工学部　社会システム工学科」のターゲット層と定義し、分析を行う。

① Q1で卒業後の進路として「大学」を希望。
② Q2で「国立」への進学を希望。
③ Q3で、「総合環境理工学部　社会システム工学科」の学びと関連する学問分野への興味あり
（電気通信工学（電力，モータ，電気電子機器，電子材料工学など）、機械工学，土木建築工学，金属工学、環境学、防災システム学のいずれかに興味あり）

秋田大学「総合環境理工学部　社会システム工学科」への受験・入学意向

- 上記の①～③の条件すべてに合致する回答者（総合環境理工学部　社会システム工学科のターゲット層該当者）は、1,768名である。

- ターゲット層該当者の、「総合環境理工学部　社会システム工学科」への受験意向、入学意向をみると、
  ◇「第一志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人は25名
  ◇「第二志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人は5名
  ◇「第三志望以降として受験する」かつ「入学する」と回答した人は7名
  上記を合計すると、いずれかの志望順位で「入学する」と回答した人は、37名。

高校生対象

秋田大学「総合環境理工学部 社会システム工学科」への受験・入学意向

■秋田大学「総合環境理工学部　社会システム工学科」への受験・入学意向

Q5. あなたは、秋田大学「情報データ科学部」（仮称、設置構想中）、「総合環境理工学部」の各学科（仮称）が新設・改組された場合、受験を希望しますか。それぞれの学科について、次より1つずつ選択してください。

Q6. **Q5で①～③（受験する）を選択した学科**についてお答えください。
あなたは、秋田大学「情報データ科学部」（仮称、設置構想中）、「総合環境理工学部」の各学科（仮称）を受験して合格した場合、入学を希望しますか。それぞれの学科について、次より1つずつ選択してください。

上段：% 下段：件数（名）		入学意向		
		入学する	志望順位が上位の他の学科・志望校が不合格の場合に入学する	入学しない
受験意向	第一志望	0.3 25	0.1 10	0.0 1
	第二志望	0.1 5	0.4 29	0.1 5
	第三志望以降	0.1 7	1.6 120	0.2 18
	受験意向あり・合計	0.5 37	2.1 159	0.3 24
受験しない		19.7 1,501		

※%の母数は、回答者全体（7,626名）

高校生対象

秋田大学「総合環境理工学部 社会システム工学科」：特色に対する魅力度

秋田大学「総合環境理工学部　社会システム工学科」 特色に対する魅力度

【総合環境理工学部　社会システム工学科　ターゲット層】
下記の①～③の条件すべてに合致する回答者: 1,768名（回答者全体の23.2%）

① Q1で卒業後の進路として「大学」を希望。
② Q2で「国立」への進学を希望。
③ Q3で、「総合環境理工学部　社会システム工学科」の学びと関連する学問分野への興味あり
（電気通信工学（電力，モータ，電気電子機器，電子材料工学など）、機械工学，土木建築工学，金属工学、環境学、防災システム学のいずれかに興味あり）

- ターゲット層における「総合環境理工学部」の特色に対する魅力度（※）をみると、最も高いのは「F．時代のニーズに合わせた専門分野の深掘りを行うと同時に、時代の変化に影響されない理工学の基礎的学問体系を教授し、応用力のある人材を養成します。」（81.4%）。次に高いのは「E．グリーン社会実現に向けた先端科学技術に関する知識、専門分野にデジタル技術を活用できる基礎知識・技術を教授します。」（80.9%）である。

- ターゲット層該当者のうち、「第一志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人（第一志望者）における「総合環境理工学部」の特色に対する魅力度（※）をみると、最も高いのは「E．グリーン社会実現に向けた先端科学技術に関する知識、専門分野にデジタル技術を活用できる基礎知識・技術を教授します。」（100.0%）。次いで「F．時代のニーズに合わせた専門分野の深掘りを行うと同時に、時代の変化に影響されない理工学の基礎的学問体系を教授し、応用力のある人材を養成します。」「G．「応用化学生物学科」「環境数物科学科」「社会システム工学科」の3学科体制とし、それぞれの学科に配置する専門教育プログラムにより、高い専門性を涵養します。」「H．専門性が異なる人と共創できる能力を育むため分野横断教育を強化し、他者と協調して総合的に課題を解決できる人材を養成します。」は同率（いずれも96.0%）である。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

高校生対象

秋田大学「総合環境理工学部 社会システム工学科」:特色に対する魅力度

■秋田大学「総合環境理工学部　社会システム工学科」:特色に対する魅力度

Q4. 秋田大学「情報データ科学部」(仮称)は、情報技術の知識とデータ解析スキルを活用して社会課題を解決し、新たな価値を創造できるデジタル人材育成をめざしています。また、「総合環境理工学部」(仮称)は、環境問題に関連した科学技術に関する教育を強化し、理工学に関する確かな専門性を身に付け、分野横断的な幅広い視野を持ち、他者と協調して課題を解決できる人材の育成をめざしています。それぞれの学部の以下のような特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

【総合環境理工学部】

特色E. グリーン社会実現に向けた先端科学技術に関する知識、専門分野にデジタル技術を活用できる基礎知識・技術を教授します。

特色F. 時代のニーズに合わせた専門分野の深掘りを行うと同時に、時代の変化に影響されない理工学の基礎的学問体系を教授し、応用力のある人材を養成します。

特色G. 「応用化学生物学科」「環境数物科学科」「社会システム工学科」の3学科体制とし、それぞれの学科に配置する専門教育プログラムにより、高い専門性を涵養します。

特色H. 専門性が異なる人と共創できる能力を育むため分野横断教育を強化し、他者と協調して総合的に課題を解決できる人材を養成します。

上段:% 下段:件数(名)	標本数	特色E	特色F	特色G	特色H
ターゲット層	1,768	80.9 1,431	81.4 1,439	77.3 1,366	80.2 1,418
第一志望者	25	100.0 25	96.0 24	96.0 24	96.0 24

※第一志望者:
ターゲット層(大学進学希望×国立×関連学問分野興味あり)該当者のうち、
秋田大学「総合環境理工学部　社会システム工学科」を「第一志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人

巻末資料　調査票

高校生対象

調査票

秋田大学「情報データ科学部」（仮称、設置構想中）、「総合環境理工学部」（仮称）に関するアンケート

秋田大学では2025年（令和7年）4月に、「情報データ科学部」（仮称）の新設と「総合環境理工学部」（仮称）の改組を構想しています。
このアンケートは、高校生のみなさんの進路選択に対する考え方や、大学で学びたいことなどの意見をお伺いし、秋田大学の教育をより充実したものにするための参考資料とさせていただくものです。
このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。また、回答いただいた内容が、高校生のみなさんの本学への入学に影響を及ぼすことは一切ありません。
つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※ このアンケートや同封した資料に記載されている「情報データ科学部」（仮称、設置構想中）、「総合環境理工学部」（仮称）に関する事項はすべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

記入要領

1. 回答は、**あてはまる番号に「○」印**をつけてください。
2. この用紙は、電算処理しますので汚さないようにしてください。
3. 記入は、必ず**鉛筆又はシャープペンシル**で濃く書いてください。
4. 下記の【良い記入例】にしたがって記入してください。
   特に、**「○」印は、番号丸枠からはみ出さないように**つけてください。

ここに○印をつけてください → ① 情報学

ID 85（この欄には記入しないでください）

良い記入例	悪い記入例			
● 情報学 ② 化学	① 情報学 ② 化学	① 情報学 ② 化学	● 情報学 ② 化学	○ 情報学 ② 化学

◆最初にあなた自身についてお聞きします。

性別（1つに○）	① 男性　② 女性　③ 回答しない
学年（1つに○）	① 1年生　② 2年生　③ 3年生
在籍している高校名	高校所在地［　　］都・道・府・県 ① 国立　② 公立　③ 私立　（←1つに○）［　　］高等学校
所属クラス（1つに○）	① 文系クラス（文系コース）　③ コース選択はない ② 理系クラス（理系コース）　④ その他

◆高校卒業後の進路や、興味のある学びについてお聞きします。

Q1 あなたは、卒業後の進路をどのように考えていますか。
現在検討している進路すべてに○をつけてください。（複数選択可）

① 大学　③ 専門職大学　⑤ 専門学校
② 短期大学　④ 専門職短期大学　⑥ 就職
⑦ その他

Q2 **Q1で①～④を選択した方**に質問です。（※Q1で①～④を選択しなかった方は、Q3に進んでください。）
志望する大学等の設置者の希望を選択してください。
現在検討している（希望している）設置者すべてに○をつけてください。（複数選択可）

① 国立　② 公立　③ 私立

Q3 ここからは**全員**にお聞きします。
高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。
以下の項目から、興味のある学問分野すべてに○をつけてください。（複数選択可）
※現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。

① 情報学,データサイエンス
② 化学
③ 生物学（生命科学など）
④ 数学,物理学,地学
⑤ 電子制御・ロボット工学
⑥ 電気通信工学（電力,モータ,電気電子機器,電子材料工学など）
⑦ 機械工学,土木建築工学,金属工学
⑧ 応用化学（先端材料（理）工学など）
⑨ 環境学
⑩ 防災システム学
⑪ 人文科学（文学,史学など）
⑫ 社会科学（法学,経済学など）
⑬ 農学（林学,水産学など）
⑭ 保健（医学,薬学,看護学など）
⑮ その他
⑯ わからない

裏面へ続く→ 1

高校生対象

調査票

◆秋田大学「情報データ科学部」（仮称、設置構想中）、「総合環境理工学部」（仮称）についてお聞きします。

秋田大学では、現在高校２年生のみなさんが大学生となる2025年（令和7年）4月に、
「情報データ科学部」（仮称）の新設と「総合環境理工学部」（仮称）の改組を構想しています。

※ ここからは、アンケートに同封している資料を見てからお答えください ※

Q４ 秋田大学「情報データ科学部」（仮称）は、情報技術の知識とデータ解析スキルを活用して社会課題を解決し、新たな価値を創造できるデジタル人材育成をめざしています。また、「総合環境理工学部」（仮称）は、環境問題に関連した科学技術に関する教育を強化し、理工学に関する確かな専門性を身に付け、分野横断的な幅広い視野を持ち、他者と協調して課題を解決できる人材の育成をめざしています。それぞれの学部の以下のような特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。
（それぞれ、あてはまる番号１つに○）

			とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
	例.　○○である。	→	①	●	③	④
情報データ科学部	A. 情報データ科学部では、入学後に様々な科目を学びながら、ITエンジニア、あるいは、データサイエンティスト等をめざすのかの将来の進路を選択することができます。	→	①	②	③	④
情報データ科学部	B. 1年次から、情報学やデータサイエンスを体系的に学び、情報技術の活用やデータ解析スキルを身に付けます。	→	①	②	③	④
情報データ科学部	C. 3年次からは、情報学やデータサイエンスを活用し社会課題を解決するための人間情報系、知能ロボティクス系、防災・エネルギー情報系の応用分野を志向に合わせて選択し、専門性を身に付けます。	→	①	②	③	④
情報データ科学部	D. アントレプレナーシップ（急激な社会環境の変化を受容し、新たな価値を生み出す精神）を育むため、課題解決型授業を通じて実践力を磨きます。	→	①	②	③	④
総合環境理工学部	E. グリーン社会実現に向けた先端科学技術に関する知識、専門分野にデジタル技術を活用できる基礎知識・技術を教授します。	→	①	②	③	④
総合環境理工学部	F. 時代のニーズに合わせた専門分野の深掘りを行うと同時に、時代の変化に影響されない理工学の基礎的学問体系を教授し、応用力のある人材を養成します。	→	①	②	③	④
総合環境理工学部	G. 「応用化学生物学科」「環境数物科学科」「社会システム工学科」の3学科体制とし、それぞれの学科に配置する専門教育プログラムにより、高い専門性を涵養します。	→	①	②	③	④
総合環境理工学部	H. 専門性が異なる人と共創できる能力を育むため分野横断教育を強化し、他者と協調して総合的に課題を解決できる人材を養成します。	→	①	②	③	④

Q５ あなたは、秋田大学「情報データ科学部」（仮称、設置構想中）、「総合環境理工学部」の各学科（仮称）が新設・改組された場合、受験を希望しますか。それぞれの学科について、次より１つずつ選択してください。

			第一志望として受験する	第二志望として受験する	第三志望以降として受験する	受験しない
情報データ科学部	情報データ科学科	⇒	①	②	③	④
総合環境理工学部	応用化学生物学科	⇒	①	②	③	④
総合環境理工学部	環境数物科学科	⇒	①	②	③	④
総合環境理工学部	社会システム工学科	⇒	①	②	③	④

※第一志望、第二志望は選択する志望順位が重ならないようにご回答ください。

Q６ **Q５で①～③（受験する）を選択した学科**についてお答えください。
あなたは、秋田大学「情報データ科学部」（仮称、設置構想中）、「総合環境理工学部」の各学科（仮称）を受験して合格した場合、入学を希望しますか。それぞれの学科について、次より１つずつ選択してください。

			入学する	志望順位が上位の他の学科・志望校が不合格の場合に入学する	入学しない
情報データ科学部	情報データ科学科	⇒	①	②	③
総合環境理工学部	応用化学生物学科	⇒	①	②	③
総合環境理工学部	環境数物科学科	⇒	①	②	③
総合環境理工学部	社会システム工学科	⇒	①	②	③

※「入学する」を選択した学科が1個または0個となるようにご回答ください。

＊ ＊ ＊ 質問は以上です。ご協力ありがとうございました。 ＊ ＊ ＊